

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	財 務 管 理 論 I (Financial Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	落 合 孝 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本 科 目 で は , 株 主 価 値 経 営 を 重 視 す る 時 代 潮 流 の 中 で 生 じ た 「 財 務 に か か わ る 『 環 境 ・ 制 度 ・ 管 理 』 の 新 た な 動 向 」 に つ い て 説 明 す る 。 「 環 境 」 編 で は 自 然 環 境 問 題 及 び 経 済 格 差 ・ 情 報 格 差 を , 「 制 度 」 編 で は 機 関 投 資 家 の 存 在 と ガ バ ナ ン ス 及 び 証 券 市 場 改 革 を , そ し て 「 管 理 」 編 で は 株 価 を 引 き 上 げ る た め の 会 計 指 標 の 見 方 と 活 用 方 法 に つ い て 説 明 す る 。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>株 主 価 値 経 営 を 重 視 す る 姿 勢 が 財 務 の 「 環 境 」 , 「 制 度 」 , 「 管 理 」 に 多 大 な 影 響 を 与 え て い る 。 こ の 状 況 に つ い て 講 義 テ ー マ ご と に 説 明 で き る よ う に な る こ と が , こ の 授 業 の 到 達 目 標 で あ る 。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ○ , 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	企 業 財 務 に お け る 株 主 価 値 経 営 : 株 主 価 値 経 営 を 定 義 し , そ の 現 状 を 踏 ま え た 上 で そ の メ リ ッ ト と デ メ リ ッ ト を 指 摘 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
2	企 業 財 務 に お け る 環 境 問 題 : 環 境 問 題 が 企 業 の 経 営 と 財 務 に 多 大 な 影 響 を 及 ぼ し つ つ あ る 現 況 に つ い て 説 明 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
3	貧 困 と 格 差 , そ し て 情 報 革 命 の 影 響 : 貧 困 か ら 生 じ る 経 済 格 差 , 情 報 革 命 が も た ら し た 情 報 格 差 の 弊 害 等 に つ い て 指 摘 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
4	機 関 投 資 家 : 機 関 投 資 家 の 株 式 市 場 に お け る 影 響 力 が 日 本 に も 及 ん で い る 現 況 を 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
5	コーポレート・ガバナンス: コーポレート・ガバナンスが注目を集めた背景、企業ガバナンスの仕組みとその改革動向について説明する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
6	持株会社制度: 第2次世界大戦後、長きにわたって禁じられてきた持株会社制度が解禁された背景、導入の影響を探索する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
7	証券市場: 第2次世界大戦後の証券市場(証券取引所)の歴史を概観し、取引所改革の狙いを探索する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
8	ディスクロージャーと財務分析①: 金融商品取引法で作成・開示が要請されている財務諸表の構造と分析手法について説明する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
9	ディスクロージャーと財務分析②: 財務諸表の分析手法、とりわけ収益性分析におけるデュボンシステムについて説明する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
10	利益管理とEVA®①: 株価と会計指標との関わりを念頭に置き、目標利益、経済利益、加重平均資本コストを用いたEVA®の説明を行う。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
11	利益管理とEVA®②: EVA®への理解を前提に、ROIC(投下資本利益率)を用いたスプレッド、そしてROICの分解について解説する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
12	運転資本管理と設備資本管理: 運転資本の管理手法として短期の支払安全性、設備資本の管理手法として長期の支払安全性を解説する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
13	キャッシュフロー管理: 運転資本の支払安全性を起点に、キャッシュフローを用いた安全性分析等の必要性を指摘する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
14	株価と投資評価: 現在価値法に基づいた正味現在価値の計算、そして同一概念に基づく配当割引モデルの利用方法について説明する。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
15	前期の学修内容のまとめ(小テスト実施)					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
鳥居陽介編・現代財務管理論研究会著(2022) 『テキスト財務管理論(第6版)』中央経済社。					指 定 し な い				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 :									
15 回 分 の 授 業 参 加 状 況 等 + 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 = 100 % で 評 価 す る 。 な お , 第 15 回 小 テ ス ト の 配 点 比 重 が や や 高 い 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎 回 の 講 義 に つ い て , 「 な に か 一 つ 」 を 新 た に 学 ぶ よ う に し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	財 務 管 理 論 II (Financial Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	落 合 孝 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本 科 目 で は , 財 務 管 理 論 I に 続 いて 企 業 財 務 の 新 た な 動 向 と 展 開 を 取 り 扱 う 。 具 体 的 に は 「 リ ス ク 」 管 理 を 起 点 に , 資 金 調 達 の 新 た な 動 き ( 間 接 金 融 か ら 直 接 金 融 へ の 加 速 ) , 財 務 戦 略 ( 資 本 政 策 と 自 社 株 買 い , M &amp; A 等 ) , 財 務 管 理 の 新 展 開 ( 中 小 企 業 経 営 , 新 ベ ン チ ャ ー ビ ジ ネ ス の 資 金 調 達 , ESG 投 資 と SDGs ) に つ い て 説 明 す る 。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>株 主 価 値 経 営 の 枠 組 み の 中 だ け に と ど ま ら ない , 企 業 経 営 の 新 た な 動 向 を 「 財 務 」 の 観 点 か ら 理 解 し , 具 体 例 を 用 い て 説 明 で き る よ う に な る こ と が , こ の 授 業 の 到 達 目 標 で あ る 。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ , 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	財 務 管 理 論 II の 概 要 説 明 : 科 目 概 要 の 説 明 を 行 っ た 後 , 財 務 の キ ー ワ ー ド で あ る 「 リ ス ク 」 管 理 の 重 要 性 に つ い て 説 明 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
2	借 入 金 の 調 達 : 有 利 子 負 債 で あ る 借 入 金 の 調 達 方 法 に つ い て , 借 入 れ の 形 態 , 利 子 , そ し て リ ス ク の 観 点 か ら 説 明 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
3	銀 行 業 の 発 展 と 今 日 的 課 題 : 日 本 経 済 の 高 度 成 長 を 支 え た 銀 行 を 取 り 巻 く 環 境 が 大 き く 変 化 し た 背 景 , 現 状 , 今 後 の 展 開 に つ い て 説 明 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
4	証 券 化 商 品 : 負 債 ・ 資 本 の 証 券 化 に つ い て 確 認 し た 後 , 資 産 の 証 券 化 に 焦 点 を 当 て , 証 券 化 の 特 性 と そ の リ ス ク に つ い て 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
5	社 債 に よ る 資 金 調 達 と 格 付 け の 意 味 : 社 債 と は 何 か , そ の 多 様 化 , 格 付 け の 意 味 を 説 明 し , 事 例 を 紹 介 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
6	資 本 政 策 と 自 社 株 買 い : 新 株 発 行 を 伴 う 資 金 調 達 方 法 , 株 主 構 成 管 理 , 長 期 資 本 調 達 の 考 え 方 , 自 社 株 買 い 等 に つ い て 説 明 す る					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
7	デ リ バ テ ィ ブ : デ リ バ テ ィ ブ の 歴 史 ・ 仕 組 み ・ 原 理 ( コ ー ル ・ オ プ シ ョ ン と プ ッ ト ・ オ プ シ ョ ン ) に つ い て の 説 明 を 行 う 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
8	M & A ( 合 併 と 買 収 ) : M & A と は 何 か , そ の 目 的 と メ リ ッ ト , 目 的 に 応 じ た M & A の 形 態 , デ メ リ ッ ト に つ い て 解 説 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
9	さ ま ざ ま な 企 業 間 提 携 : M & A と は 異 な る 「 連 携 」 の 形 式 で 着 手 ・ 実 施 さ れ る 「 各 種 ビ ジ ネ ス の 仕 組 み 」 に つ い て 説 明 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
10	知 的 財 産 権 : 知 的 財 産 権 と は 何 か , 知 的 財 産 を 用 い た 戦 略 策 定 , 戦 略 策 定 の 際 の 留 意 点 に つ い て 指 摘 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
11	中 小 企 業 経 営 : 中 小 企 業 と は 何 か , そ れ を 取 り 巻 く 環 境 変 化 を 確 認 し つ つ , 新 た な 中 小 企 業 経 営 の 在 り 方 を 提 示 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
12	ESG 投 資 と SDGs : ESG 投 資 と は 何 か , そ の 現 状 と SDGs と の 異 同 に つ い て 説 明 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
13	ベ ン チ ャ ー ビ ジ ネ ス の 新 動 向 : ベ ン チ ャ ー ビ ジ ネ ス の 資 金 調 達 方 法 , そ の 新 た な 動 向 に つ い て 説 明 す る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
14	こ れ か ら の 財 務 管 理 : 環 境 変 化 に 適 応 す る こ と が 企 業 の 存 続 ・ 発 展 の 条 件 で あ る こ と を 前 提 に , こ れ か ら の 財 務 管 理 在 り 方 を 探 る 。					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
15	財 務 管 理 の 総 論 的 復 習 ( 小 テ ス ト 実 施 )					事 前 : テ キ ス ト を 用 い た 予 習 事 後 : 資 料 等 を 用 い た 復 習		講 義 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
鳥 居 陽 介 編 ・ 現 代 財 務 管 理 論 研 究 会 著 ( 2022 ) 『 テ キ ス ト 財 務 管 理 論 ( 第 6 版 ) 』 中 央 経 済 社 。					指 定 し ない				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 :									
15 回 分 の 授 業 参 加 状 況 等 + 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 = 100 % で 評 価 す る 。 な お , 第 15 回 小 テ ス ト の 配 点 比 重 が や や 高 い 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎 回 の 講 義 に つ い て , 「 な に か 一 つ 」 を 新 た に 学 ぶ よ う に し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

そ

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	財 務 諸 表 論 (Financial Accounting)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企業会計は、財務会計と管理会計とに分類できる。中でも、財務会計は、企業外の利害関係者に対して財務諸表を公表することを目的とする。財務諸表論では、財務諸表のもつ役割や会計リテラシーについて学修する。また、近年に改正された会計基準についても取り上げる。なお、各回の最初に理解度の確認として、前回の内容の小テストを実施する。									
授 業 目 標 : 財務諸表に関わる知識およびその活用方法を習得することを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	会計リテラシー 会計リテラシーの必要性について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義90分	
2	多分野に必要な会計知識 さまざまな分野に必要な会計知識について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
3	コーポレートガバナンスと会計 企業のコーポレートガバナンスと会計について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
4	企業実態と財務諸表 財務諸表が表す企業実態の見方について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
5	減価償却 減価償却がもつ会計処理の意味について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
6	財務諸表の意義とその情報提供 財務諸表の意義とそれが提供する情報について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
7	会計基準の設定 会計基準がどのように作成されるのかについて解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
8	現代の会計の動向 現代に考えられている会計の動きについて解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
9	包括利益 包括利益に関する基準とその処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
10	退職給付会計 退職給付に関する基準とその処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
11	収益認識 収益認識に関する基準とその処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
12	時価会計 時価に関する基準とその処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
13	中間財務諸表・期中レビュー 中間財務諸表・期中レビューについて解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
14	リース会計 リース取引に関する基準とその処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		小テスト20分 講義70分	
15	問題演習 授業内容について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習90分	
教 本 : 千葉商科大学編『会計リテラシー』、同文館出版。					参 考 文 献 : 桜井久勝『財務会計講義』(最新版)、中央経済社。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 試験(100%)で評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 念のため電卓を用意すること(スマホなどの電卓は認めない)。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	産 業 心 理 学 概 論 (Occupational Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
<p>授業概要：</p> <p>現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業と組織心理学とは不可分のものである。本授業では、主に企業組織において求められる人材とは何かを中心として学びを進める。内容としては、企業トップがしばしば陥る判断誤り、産業場面において事故多発者と無事故者におけるパーソナリティの差異や、「安全」と「リスク」の定義、リーダーシップと生産効率、及び事故防止に向けた危険感受性訓練法等である。授業形態は講義を中心としますが討議法も随時使い、「分かりやすい授業」を目指す。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①生産効率にかかわる社員のパーソナリティ特性、②社員にやる気をもたらす動機づけの仕組み、③リーダーシップの働きまでが理解できることを、本授業の到達目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	ミュンスターバーグに始まる産業心理学の発展・展開を産業心理学史Ⅰとして学ぶ。その中で特に重要であるテイラーを取り上げ、彼が主張した科学的管理法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	産業心理学史Ⅱとして、産業心理学を大きく飛躍させる契機となった「ホーンソンの実験」を取り上げ、その後の人事相談制度が開設されるまでのいきさつを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性をと何かを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法（自己評価法と他者評価法）を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、評価実習 30分、PBL 20分	
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されている active safety、passive safety の定義と方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30分、実験 40分、PBL 20分	
11	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	リーダーシップ研究を概観し、またレヴィンらの実験手法を伴うリーダーシップ研究の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	代表的なリーダーシップ理論である「PM理論」と「マネジリアルグリッド理論」を学び、その意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法（危険感受性訓練法）を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 深澤伸幸(著)『ヒューマンエラーとリスク・パーセプション』、企業開発センター、¥3,000	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので、注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	産 業 心 理 学 概 論 (Occupational Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	牧 裕 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
20 世 紀 の 世 紀 末、バブル景気の終焉、大手企業としても倒産等がある。人生 100 歳時代でのライフスタイルの変化、ファミレスでは猫型ロボットが料理を選び、society 5.0でのロボット化、人工知能の進化が進んでいる。その産業領域での心理学である。									
授 業 目 標 :									
ネット社会でのクラウドの範囲は世界に及ぶ。クラウド体験は心での広大な未知の無意識との対話のようだ。「感動」「共感」として顧客と従業員及び従業員同士での共有である。今日での産業領域で求められる心理学の感触を深めたい。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (人生 100 年時代のマルチステージライフと Society 5.0 の産業構造)					事前:組織内ならでの心理 事後:マルチステージライフ時代		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
2	企業「PDCA」サイクルでの「計画」と「実践」の関係 —ストーン・スプーン物語とマーケティング—					事前:偶然体験を振り返る。 事後:「計画・実践」と偶然		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
3	創発するマーケティング —「メディアの展開」「ハイ・コンセプト」「フラット化」—					事前:企画の実現へ過程 事後:経営者と顧客の関係		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
4	創発するマーケティング (求められる消費者・企業者関係「ターゲットからプレイヤー」等)					事前:成功企業の取り組み 事後:今日の職場の変化		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
5	就労現場で働く無意識のメカニズム (文脈効果、システム正当化理論、認知的不協和理論等)					事前:心理学で関心ある事項 事後:日常から振り返る		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
6	組織集団の組織集団でのポジティブな側面とネガティブな側面、無意識からの影響					事前:働きやすい職場 事後:集団内での無意識体験		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
7	ワークパーソナリティ (D. スーパーのライフキャリアの虹、E.H. シャインのキャリアアンカー)					事前:学校体験で役に立そうなこと 事後:支えるキャリアアンカー		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
8	ワークパーソナリティ (J.I. ホランドの VPI: 職業選択にみるパーソナリティ、職業興味検査の体験)					事前:自身の性格を活かす 事後:職業興味検査からの気づき		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
9	リーダーシップの代表的な理論—「PM 理論」「SL 理論」等の理解					事前:職場での理想の上司とは… 事後:働く現場でのリーダーシップ		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
10	リーダーシップの代表的な理論—「マネジメント・グリッド理論」等の理解					事前:リーダーシップへの疑問点 事後:対比的にリーダー論を語る		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
11	ライフサイクル論とワーキングライフ					事前:中年期以降の自身を創造 事後:ライフサイクル論と自己実現		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
12	産業領域でのメンタルヘルス—働く我が国での制度面の変遷—					事前:職場ストレスの所在場面 事後:今日の安全衛生法		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
13	産業領域でのメンタルヘルス—働く我が国での対策—					事前:職場ストレスに備える体験 事後:現状のストレス対策を説明		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
14	ダイバーシティ (多様性) 時代の産業界					事前:ダイバーシティと就労 事後:障害者雇用の実際		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
15	まとめ					事前:教本の予習 事後:ノートの整理・復習		講義 60 分、小レポート・ ディスカッション 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授業で随時配布する。					授業で随時配布する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 授業参加状況等 (10%)、小レポート (40%)、学期末テスト (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
クラウド時代の産業構造の中、「君はどう生きるか」									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	産業政策とイノベーション (Industrial Policy and Innovation)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	グローバル経済・経営ガバナンス、基礎科目として経済学、政治学等の関連科目を履修していること。							
	その他	担当教員の国際関係の科目を「その他の科目」として履修していることが望ましい。							
授業概要： 昨今は経済安全保障の枠組みの中で産業政策が語られるようになりました。デジタル社会における産業政策の特徴は、半導体やバッテリー等の戦略的産業への積極的な支援策です。イノベーションのために産業政策は不可欠ですが、その課題も多くあります。本講義では各国の産業政策の歴史やその内容を振り返りながら、イノベーションに必要な産業政策の光と影を学びます。									
授業目標： ①産業政策の歴史について理解する。 ②デジタル社会での産業政策の功罪を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の全容を知る。					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
2	産業政策とは何か：産業政策、イノベーションといった基本概念を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
3	日本の産業政策の歴史①：殖産興業から太平洋戦争までの日本の産業政策の歴史を追う。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
4	日本の産業政策の歴史②：戦後日本の産業政策をリードした通産省（現経産省）(MITI) の政策とその海外の評価を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
5	日本の産業政策の歴史③：MITI から METI（経産省）への移行の理由とその後の産業政策の歴史を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
6	アメリカの産業政策の歴史：技術開発、イノベーションへの国家の関わりに積極的な米国の産業政策の歴史を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
7	イギリスの産業政策の歴史：米国と対照的に国家の関わりを避ける英国の産業政策の考え方、歴史を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
8	2010年代後半からの「経済安全保障」言説と政策：世界の主要国で唱導される経済安全保障政策の動きを知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
9	アメリカ、欧州、豪州、中国の経済安全保障としての産業政策：諸外国の経済安全保障政策の概要を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
10	日本の経済安全保障としての産業政策：日本の経済安全保障としての産業政策を知る。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
11	日本の半導体政策の事例①：日本における半導体への産業政策の経緯と最近の事例を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
12	日本の半導体政策の事例②：最近の事例を学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
13	日本のレアアース政策の事例：レアアース問題の所在とその日本における対応について学ぶ。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
14	日本の産業政策の功罪：日本の産業政策はイノベーションを生むのか。その功罪について議論を進める。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
15	まとめ：講義全体を総括する。					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義45分 対話式45分	
教本： 教材は毎回配布しますので購入は不要です。					参考文献： 講義で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加（積極的か否か。ただ出席するのではなく）とレポートで総合評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）									
学生へのアドバイス： 積極的に知識を付けたい皆さんの受講を希望します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ジェンダー論 (Gender Studies)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	Google Classroom 使用							
<p>授業概要：</p> <p>身の回りの出来事をジェンダーの視点からとらえ、「当たり前」や「思い込み」を問い直します。毎回の授業で、ワークシートに記入、小テストを受けて、理解度について確認します。次の会の授業冒頭で補足説明を行います。最終テストは、持ち込み不可です。</p>									
<p>授業目標：1. ジェンダー研究の基本概念を理解する。 2. 身の回りの出来事をジェンダーの視点からとらえ直すことができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（受講ルール、成績判定、ミニ授業）					事前：なし 事後：教科書購入		授業説明80分、小テスト10分	
2	教科書1. 「女らしさ・男らしさ」を決めるのは誰？ －ジェンダー、性差別、ジェンダー・ギャップ指数					事前：「〇らしさ」イメージ 事後：1章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
3	教科書2. フェミニストは「萌え絵」が嫌い？ －炎上、女性学、ジェンダー研究					事前：「萌え」対象 事後：2章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
4	教科書3. LGBTは私のまわりにいないのか？ －マイノリティ、クイアペダゴジー、アライ					事前：LGBTイメージ 事後：3章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
5	教科書4. 女性はメイクをしなければだめ？ －美の強制、エロティック・キャピタル、ルッキズム					事前：メイク、脱毛イメージ 事後：4章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
6	教科書5. これは男子の遊び？それとも侵害行為？ －男性学、男らしさ、ホモソーシャルな絆					事前：男らしさイメージ 事後：5章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
7	教科書6. 学校にもジェンダー差別はあるのか？ －隠れたカリキュラム、ポジティブアクション、教育					事前：高校ジェンダー教育 事後：6章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
8	教科書7. スポーツは男性のほうが向いている？ －ジェンダー秩序、性別二元論、身体の性の多様な発達					事前：スポーツのイメージ 事後：7章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
9	教科書9. あなたにとって「家族」とは誰？ －性別役割分業/新・性別役割分業、同性婚、ケア					事前：家族の範囲 事後：9章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
10	教科書10. 女性専用車両は「男性差別」か？ －痴漢、性暴力、性的同意					事前：満員電車経験 事後：10章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
11	教科書13. ケア役割は誰のもの？ －フェミニスト障害学、優生思想、自立生活					事前：ヤングケアラー 事後：13章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
12	教科書15. 「トランスジェンダー問題」とは何か？ －トランスジェンダー/シスジェンダー、性別承認法					事前：コスプレイメージ 事後：15章の復習		講義60分、Gワーク20分、 小テスト10分	
13	まとめ －半期振り返り					事前：疑問点洗い出し 事後：半期振り返り		講義80分、小テスト10分	
14	最終テスト －筆記用具のみ					事前：試験準備 事後：自己採点		講義30分、最終テスト60分	
15	テスト結果、映像					事前：採点結果 事後：まとめ		講義30分、映像60分	
<p>教本： 守如子・前川直哉編『基礎ゼミ ジェンダー・スタディーズ』世界思想社、2025年発行、¥1,900+税</p> <p>参考文献： 適宜紹介します。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	自己の心理学 (Psychology of Self)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒木 光								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 授業序盤は、パーソナリティ心理学の概観をつかむ。その後、世界で活躍した9名の心理学者の各パーソナリティ理論を取り上げ、エクササイズの体験を通して自己洞察を深め、自己成長を目指す。									
<b>授業目標：</b> 1. パーソナリティに関する主要な理論を理解し、多角的な視点から人間の個性を考察できるようになる。 2. パーソナリティ理論に基づく心のエクササイズを体験し、自己成長や人間関係に役立てる実践的な視点を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	パーソナリティとは？					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義30分 演習60分	
2	代表的なパーソナリティ理論					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義30分 演習60分	
3	特性論と類型論					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義30分 演習60分	
4	パーソナリティをとらえる心理検査					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義30分 演習60分	
5	子ども時代の記憶と体験					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義30分 演習60分	
6	ジークムント・フロイトと精神分析理論					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義30分 演習60分	
7	アルフレッド・アドラーとアドラー心理学					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義30分 演習60分	
8	カール・ユングと分析心理学					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義30分 演習60分	
9	カレン・ホーナヒと精神分析的な社会理論					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義30分 演習60分	
10	エリック・エリクソンと心理社会理論					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義30分 演習60分	
11	アルバート・バンデューラと社会的学習理論					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義30分 演習60分	
12	ゴードン・オルポートと特性論					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義30分 演習60分	
13	アブラハム・マズローと自己実現理論					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義30分 演習60分	
14	カール・ロジャーズと自己理論					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義30分 演習60分	
15	臨床実践とパーソナリティ心理学					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 演習30分	
<b>教本：</b> 「人から人に伝わるパーソナリティ心理学」 風間書房 ￥1,800					<b>参考文献：</b> 授業中に随時紹介する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 本授業では、理論の暗記ではなく、自身の人生や社会の中で心理学の知識を活かせるような学びを目指します。授業は講義だけではなく、各心理学理論に基づくエクササイズを通して自己洞察を深め、自己成長を目指します。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	実践日本語トレーニングA (Practical Japanese Training A)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	澤田 帆奈美									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<b>授業概要：</b> 「情報、知識、感情、意思」を相手とどのように共有すればビジネスにおけるコミュニケーションや、関係構築がスムーズにできるのかを学ぶ。具体的には、インターンシップや就職活動等で必要な社会人としての心構えや基本動作、接遇・電話応対等におけるビジネス会話、メールやビジネス文書の作成等、様々な知識を、グループワーク等を通じて、実践的に身につけていく。										
<b>授業目標：</b> ①ビジネスの場面にふさわしいマナー、敬語の用法、表現技法等の知識を有し、適切に用いることができる。 ②メールやビジネス文書作成に必要な基本事項、表現技法等の知識を有し、実際に作成することができる。 ③秘書検定のマナー接遇、技能の分野の問題を正しく答えられるような知識を身につける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス 第一印象の重要性（おしゃれとみだしなみ）					事前：シラバスを読む 事後：配付資料を読む		講義(60分) 意見出し・演習(30分)		
2	ビジネスコミュニケーション（社会人基礎力 話し方・聴き方）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
3	挨拶（おじぎの分類） 基本動作（立ち姿勢・座り姿勢）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
4	社内でのマナー（指示の受け方、報告のしかた ほうれんそう）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
5	ビジネス敬語の基本（敬語の用法の確認） ビジネス敬語 実践トレーニング（ロールプレイ）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
6	バイト敬語（会話スキットを視聴。よくないところを指摘、正しい言い方を考える）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
7	ビジネス敬語 実践トレーニング（ロールプレイ）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
8	電話のマナー① 電話を受ける 実践トレーニング					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)		
9	電話のマナー② 電話をかける 実践トレーニング					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
10	応接のマナー（来客対応 席次）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習(60分)		
11	ビジネスにおける文書の取り扱い（受取り・郵便発信等） ビジネスメール 書き方 実践トレーニング <u>ノートPC持参</u>					事前：事前配付の資料を読む 事後：文書の作成（次週提出）		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
12	ビジネス文書とは ビジネス文書の書き方 実践トレーニング（社内文書） <u>ノートPC持参</u>					事前：事前配付の資料を読む 事後：文書の作成（次週提出）		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
13	ビジネス文書とは ビジネス文書の書き方 実践トレーニング（社外文書） <u>ノートPC持参</u>					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
14	訪問のマナー 名刺交換のマナー 実践トレーニング					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分) 意見出し・演習・実践練習(60分)		
15	全体のまとめ					事前：質問事項の洗い出し 事後：なし		講義(50分)・演習(40分)		
<b>教本：</b> 教材は、授業前に配布します。 【DVDで学べる人のビジネスマナー】西東社 【らくらく合格秘書検定2・3級】翔泳社					<b>参考文献：</b> 『ビジネス日本語 ①内定者編』凡人社 『ビジネス日本語 ②新入社員編』凡人社 『ビジネスマナー基礎実習』早稲田教育出版社					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかどうかで評価します。 グループワーク等授業への取り組み姿勢（30%）、課題・提出物等（30%）、期末試験（40%）により総合的に評価する。										
<b>学生へのアドバイス：</b> ビジネス会話・文書作成のスキルを、学生のうちから身につけておくと、就活の際、武器になります。毎回の予習復習をしっかりと行うことで着実にスキルが身につきますので、目標意識を明確にして取り組みましょう。										
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	実践日本語トレーニングB (Practical Japanese Training B)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	澤田 帆奈美									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>社会で通用し、ビジネスや研究の場で必須となる日本語力を身につけ、就職試験や就職後につながる実践的な日本語力を身につける。日本語検定2、3級の知識、秘書検定2、3級に出てくる日本語やビジネス関連の言葉を学んでいく。授業では、検定問題に解答するだけでなく、人に説明できるレベルまで理解を深めるため、担当者に日本語関連の専門用語について調べ、発表してもらうことも行う。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>1. 仕事や研究に必要な実践的な日本語力を身につける。  2. 就職後に日常的に使うことばを理解し、使用できる語彙を広げる。  3. 日本語検定2、3級、秘書検定2、3級（マナー接客問題、一般知識問題）の問題を正しく解答できるようになる。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス 日本語検定、秘書検定について 秘書検定単語クイズ 次週の出題箇所の説明					事前：シラバスを読む 事後：なし		講義(60分) 演習(30分)		
2	秘書検定単語クイズ：敬語基本 接遇用語 語彙 言葉と言葉の関係					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
3	秘書検定単語クイズ：賀寿、六曜の用語、贈答用のマナー 語彙 類義語 対義語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
4	秘書検定単語クイズ：葬儀に関する用語 言葉の意味 多義語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
5	秘書検定単語クイズ：慶事、弔事と上書きと水引の用語 言葉の意味 慣用語 ことわざ 故事成語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
6	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われるカタカナ語 ① 漢字 漢字熟語の構成					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
7	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われるカタカナ語 ② 漢字 同音異義語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
8	秘書検定単語クイズ：業務上よく使われる略語 漢字 同音異字 同訓異字					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
9	秘書検定単語クイズ：企業経営組織の知識 漢字 四字熟語					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
10	秘書検定単語クイズ：人事・労務の用語 表記 仮名づかい 送りがない					事前：課の予習 事後：練習問題残り		講義(45分) 演習(45分)		
11	秘書検定単語クイズ：マーケティングの用語 文法 用言の活用と接続					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
12	秘書検定単語クイズ：会計・財務の用語 文法 可能動詞・受身と使役					事前：課の予習／担当は発表準備 事後：練習問題残り		講義(30分) 発表・演習(60分)		
13	秘書検定単語クイズ：税務の用語 文法 文のねじれ 接続語					事前：課の予習 事後：練習問題残り		講義(45分) 演習(45分)		
14	秘書検定単語クイズ：金融の用語、印鑑の知識 文法 助詞 助動詞					事前：課の予習 事後：練習問題残り		講義(45分) 演習(45分)		
15	全体のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義(30分) 演習(60分)		
<p>教本：プリント教材を配布する  『ステップアップ日本語 中級』東京書籍  『らくらく合格秘書検定2・3級』翔泳社</p>					<p>参考文献：  『ステップアップ日本語 上級』東京書籍</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：  発表担当、授業参加度等の授業態度（40%）、提出物（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p>										
<p>オフィスアワー：  初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	実 用 英 語 I (Practical English I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 実 用 英 語 技 能 検 定 の 合 格 を 目 指 し ます 。 本 検 定 は 英 語 の 4 技 能 (リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング) の バランス を 重 視 し た 試 験 内 容 で 、 社 会 で 求 め ら れ る 英 語 力 を 測 る こ と が で き ます 。 出 題 さ れ る 問 題 の 傾 向 を 知 り 、 実 際 に 英 検 の 問 題 を 解 答 、 そ れ に つ い て の 解 説 を 行 う こ と に よ っ て 英 語 の 理 解 と 定 着 を 図 り ます 。									
授 業 目 標 : 実 用 英 語 I で は 3 級 と 準 2 級 の 合 格 を 目 指 し ます 。 目 標 と す る 合 格 の 級 は 、 受 講 す る 学 生 が 各 自 、 設 定 し ます 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 授 業 内 容 の 確 認		授 業 の 進 め 方 と 評 価 に つ い て の 説 明 、 質 疑 応 答	
2	3 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
3	3 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
4	3 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
5	3 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
6	3 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
7	3 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
8	3 級 の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 復 習 事 後 : 模 擬 試 験 の 確 認		3 級 の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
9	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
10	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
11	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
12	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
13	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
14	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
15	準 2 級 の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 復 習 事 後 : 模 擬 試 験 の 確 認		準 2 級 の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
教 本 : プ リ ン ト を 配 布 し ます 。					参 考 文 献 : 授 業 内 で 紹 介 し ます 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、 定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英 語 力 の 進 捗 状 況 を 知 る た め に 、 受 講 中 に 1 回 は 英 検 を 受 験 し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	実 用 英 語 II (Practical English II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 実 用 英 語 技 能 検 定 の 合 格 を 目 指 し ます 。 本 検 定 は 英 語 の 4 技 能 (リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング) の バランス を 重 視 し た 試 験 内 容 で 、 社 会 で 求 め ら れ る 英 語 力 を 測 る こ と が で き ます 。 出 題 さ れ る 問 題 の 傾 向 を 知 り 、 実 際 に 英 検 の 問 題 を 解 答 、 そ れ に つ い て の 解 説 を 行 う こ と に よ っ て 英 語 の 理 解 と 定 着 を 図 り ます 。									
授 業 目 標 : 実 用 英 語 II で は 準 2 級 プ ラ ス と 2 級 の 合 格 を 目 指 し ます 。 目 標 と す る 合 格 の 級 は 、 受 講 す る 学 生 が 各 自 、 設 定 し ます 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 授 業 内 容 の 確 認		授 業 の 進 め 方 と 評 価 に つ い て の 説 明 、 質 疑 応 答	
2	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
3	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
4	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
5	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
6	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
7	準 2 級 の 筆 記 問 題 と リ ス ニ ン グ 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
8	準 2 級 の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 復 習 事 後 : 模 擬 試 験 の 確 認		準 2 級 プ ラ ス の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
9	2 級 の 筆 記 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
10	2 級 の 筆 記 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
11	2 級 の 筆 記 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
12	2 級 の 筆 記 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
13	2 級 の 筆 記 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
14	2 級 の 筆 記 問 題 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 布 プ リ ン ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習 形 式 で 、 各 形 式 の 問 題 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
15	2 級 の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説					事 前 : 配 付 資 料 の 復 習 事 後 : 模 擬 試 験 の 確 認		2 級 の 模 擬 試 験 の 解 答 と 解 説 、 Q & A	
教 本 : プ リ ン ト を 配 布 し ます 。					参 考 文 献 : 授 業 内 で 紹 介 し ます 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、 定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英 語 力 の 進 捗 状 況 を 知 る た め に 、 受 講 中 に 1 回 は 英 検 を 受 験 し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	質 的 調 査 法 (Qualitative Survey Methods)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 質 的 研 究 法 と は、数 値 データ を 分 析 す る 量 的 研 究 法 と は 異 な り、人 の 語 り や 記 述 な ど の 言 語 データ を 分 析 す る 研 究 法 で あ る。本 講 義 で は 質 的 研 究 法 の 基 本 に つ い て、概 論 の 講 義 と 質 的 研 究 法 を 用 い た 研 究 論 文 に よ り 学 び、そ の 上 で 代 表 的 な 質 的 研 究 法 の ひ と つ で あ る KJ 法 を 実 際 に 体 験 す る。									
授 業 目 標 : 質 的 研 究 法 に つ い て 理 解 し、代 表 的 な 質 的 研 究 法 の ひ と つ で あ る KJ 法 が で き る よ う に な る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
2	量 的 研 究 と 質 的 研 究					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
3	質 的 調 査 法 を 用 い た 研 究 論 文 紹 介 ①					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 で 取 り 上 げ た 論 文 を 読 む		講 義	
4	質 的 調 査 法 を 用 い た 研 究 論 文 紹 介 ②					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 で 取 り 上 げ た 論 文 を 読 む		講 義	
5	質 的 調 査 法 を 用 い た 研 究 論 文 を 検 索 し、読 み 込 む (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : グ ル ー プ を 決 め て 論 文 を 読 む		講 義 40 分、 グ ル ー プ ワーク 50 分	
6	論 文 の 内 容 を ま と め る (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : グ ル ー プ を 決 め て 論 文 を 読 む 事 後 : 発 表 資 料 作 成		グ ル ー プ ワーク 90 分	
7	発 表 資 料 を 作 成 す る					事 前 : 発 表 資 料 作 成 事 後 : 発 表 準 備		グ ル ー プ ワーク 90 分	
8	発 表 会 ①					事 前 : 発 表 準 備 事 後 : 発 表 に 対 す る 意 見 を ま と め る		発 表 ・ 討 議 90 分	
9	発 表 会 ②					事 前 : 発 表 準 備 事 後 : 発 表 に 対 す る 意 見 を ま と め る		発 表 ・ 討 議 90 分	
10	KJ 法 を 用 い た 研 究 の 実 施 (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : KJ 法 に つ い て 調 べ て お く 事 後 : データ の 検 討		講 義 40 分、 グ ル ー プ ワーク 50 分	
11	KJ 法 を 用 い た 研 究 の 実 施 (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : データ の 検 討 事 後 : 発 表 資 料 作 成		グ ル ー プ ワーク 90 分	
12	KJ 法 を 用 い た 研 究 の 実 施 (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : 発 表 資 料 作 成 事 後 : 発 表 準 備		グ ル ー プ ワーク 90 分	
13	発 表 会					事 前 : 発 表 準 備 事 後 : 発 表 内 容 を 振 り 返 る		発 表 ・ 討 議 90 分	
14	結 果 を レポ ー ト に ま と め る					事 前 : 発 表 内 容 を 振 り 返 る 事 後 : レポ ー ト 作 成		講 義	
15	ま と め					事 前 : レポ ー ト 作 成 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義	
教 本 : な し。授 業 中 に 資 料 を 配 布 す る。					参 考 文 献 : 授 業 中 に、適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、レポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の アド バ イ ス : 授 業 に は、グ ル ー プ ワーク、ディス カ ュ シ ョ ン、プ レゼ ン テー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。毎 回 の 授 業 終 了 時 に は、コ メ ン ト ペー パー に 授 業 内 容 か ら 考 え た こ と を 書 い て 提 出 し て い た だ く。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 授 業 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	私法学 I (Private Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上地 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講義では、私法とは何かを学ぶために、私法の一般法としての民法典を中心に講義を行います。私法の基礎知識を習得するために、講義のテーマは民法第一編総則の重要な概念を取り上げることとします。これらを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
<b>授業目標：</b> ①民法典の構造を理解し、説明できる。 ②契約の基本構造を説明できる。 ③意思表示の基本理論を説明できる。 ④私法における個人間の関係モデルを説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション 私法の一般法としての民法典の構成について概説し、授業計画などについて説明する			事前：事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分		
2	私法とは何か、またその特質について説明する			事前：資料の予習 事後：私法の特徴をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
3	民法典の構造と民法典の構成を理解する			事前：民法の構成について調べる。 事後：民法典の体系について調べる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
4	民法財産法とは何か (1) 物権法の概要を中心に解説する			事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
5	民法財産法とは何か (2) 債権法の概要を中心に解説する			事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
6	契約の主体 (1) 権利能力について説明する			事前：権利能力について調べる。 事後：権利能力の始期と終期、例外をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
7	契約の主体 (2) 権利能力・意思能力・行為能力とは何か、またこれらがどのような役割を果たしているのかを理解する			事前：権利能力・意思能力・行為能力の関係を調べる。 事後：権利能力・意思能力・行為能力の関係をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
8	契約の主体 (3) 行為能力と成年後見制度につき、新しい成年後見制度が果たすべき目的などを理解する			事前：行為能力と成年後見制度を調べる。 事後：成年後見制度の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
9	意思表示 (1) 意思表示とは何か/心裡留保とは何かを解説する			事前：意思表示とは何かを調べる。 事後：心裡留保についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
10	意思表示 (2) 虚偽表示とは何かについて解説し、権利外観法理について解説する			事前：虚偽表示とは何かを調べる。 事後：権利外観法理についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
11	意思表示 (3) 虚偽表示における第三者の範囲/94条2項と権利外観法理の射程を理解する			事前：虚偽表示における第三者の範囲を調べる。 事後：94条2項と権利外観法理をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
12	意思表示 (4) 錯誤とは何かにつき新旧の錯誤法を解説する			事前：錯誤とは何かを調べる。 事後：錯誤法についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
13	意思表示 (5) 詐欺・強迫につき新規定を中心に解説する			事前：詐欺・強迫を調べる。 事後：詐欺・強迫についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
14	契約の拘束力、また契約が効力を失う場合（無効・取消し・解除）について解説する			事前：契約の無効・取消し・解除のちがいを調べる。 事後：契約の無効・取消し・解除をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
15	まとめ 意思表示理論についての総括と理解度を確認する			事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
教本： とくになし（資料を配布します）。				参考文献： 授業中に適宜指示します。					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	私法学Ⅱ (Private Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上地 一郎								
履 修 条 件	前提科目	法学／私法学Ⅰ							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講義では、私法とは何かを学ぶために、私法の一般法としての民法典を中心に講義を行います。私法の基礎知識を習得するために、講義のテーマは民法第一編総則の重要な概念を取り上げることとします。これらを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
<b>授業目標：</b> ①民法典の構造を理解し、説明できる。 ②代理の基本構造を説明できる。 ③法律行為の内容と一般的有効要件を説明できる。 ④法人法制の基礎を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション 権利能力・意思能力・行為能力・意思表示を振り返り、授業の進め方などについて説明する				事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分	
2	意思表示の復習 (1) 心裡留保/虚偽表示を復習し、理解を深める				事前：心裡留保、虚偽表示について復習する。 事後：権利外観法理についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
3	意思表示の復習 (2) 錯誤/詐欺・強迫を復習し、理解を深める				事前：錯誤、詐欺・強迫について復習する。 事後：錯誤、詐欺・強迫についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
4	代理 (1) 代理の法律関係を解説し、法的論点を理解する				事前：代理制度とは何かを調べる。 事後：代理の法律関係についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
5	代理 (2) 代理行為—代理人と相手方との関係について説明し、代理の効果について理解を深める				事前：代理行為の有効性をめぐる問題を調べる。 事後：代理行為の有効性、その効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
6	代理 (3) 無権代理とは何か、無権代理人と取引した相手方はどのような手段をとることができるのかを解説する				事前：無権代理に関する民法のルールを調べる。 事後：無権代理の相手方がとりうる手段をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
7	代理 (4) 表見代理 (1) 代理権授与表示表見代理、代理権踰越の表見代理を中心に表見代理を解説する				事前：表見代理とは何かを調べる。 事後：109条と110条の重畳適用についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
8	代理 (5) 表見代理 (2) 代理権消滅後の表見代理を中心に表見代理を解説する				事前：代理権消滅後の表見代理を調べる。 事後：110条と112条の重畳適用についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
9	契約の有効性 契約が有効となる条件について解説し、理解を深める				事前：契約の一般的有効要件について調べる。 事後：契約の一般的有効要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
10	契約の効力発生時期について、条件・期限・期間を中心に解説する				事前：契約の条件と期限の種類と区別について調べる。 事後：契約の条件と期限、期間についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
11	時効 (1) 消滅時効とは何かを中心に解説し、時効の諸問題を検討する				事前：消滅時効とは何かについて調べる。 事後：消滅時効の論点を整理する。			講義 60分 ディスカッション 30分	
12	時効 (2) の効力の中断・停止、時効の効果、除斥期間を解説し、時効の理解を深める				事前：中断と停止について調べる。 事後：時効の効果と除斥期間についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
13	法人 (1) 法人総論 法人とは何か、法人制度をめぐる法的論点を解説する				事前：法人とは何かについて調べる。 事後：法人制度の基本枠組についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
14	法人 (2) 社団と組合に違いがあるのか、また権利能力のない社団をめぐる法的諸問題を考える				事前：社団と組合は違うのかについて調べる。 事後：社団論についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
15	法人 (3) 一般法人の組織について検討し、法人制度の理解を深める				事前：一般法人の組織について調べる。 事後：一般法人の組織についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	児 童 家 庭 福 祉 (Child and Family Welfare)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 村 海 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本授業では、現代社会における子ども家庭福祉の意義を捉え、わが国における子どもや家庭を取り巻く現状と諸課題について、関係する法制度や財政、実施機関・施設等に関する基本的理解の修得を目指す。また、少子高齢化の背景を捉え、子どもの豊かな成長発達を支援していくため、国際社会や日本における子どもの権利擁護や社会的支援のあり方について学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉の意義や目的を理解している</li> <li>2. 子どもの権利と権利擁護の仕組みについて理解し、子どもの最善の利益について考えられる</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している</li> <li>4. 歴史の変遷を経て、現代の法制度が成り立っていることを知り、子ども家庭福祉の現状と課題について理解している</li> </ol>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	授 業 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン、今 日 の わ が 国 に お け る 子 ど も 家 庭 福 祉 の 理 念 と 意 義 に つ い て 説 明 す る				事 前 : 子 ど も と 家 庭 に 関 す る 記 事 等 を 読 ん で お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
2	少 子 高 齢 社 会 に お け る 子 ど も 家 庭 福 祉 の 現 状 に つ い て 説 明 す る				事 前 : 少 子 高 齢 社 会 に 関 連 す る 記 事 等 を 読 む 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
3	欧 米 や 日 本 に お け る 子 ど も 家 庭 福 祉 の 歴 史 的 な 変 遷 に つ い て 説 明 す る				事 前 : 中 世 以 降 の イ ギ リ ス の 歴 史 的 な 変 遷 を 調 べ て お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
4	国 際 社 会 お よ び 日 本 で の 子 ど も の 人 権 保 障 の 仕 組 み に つ い て 説 明 す る				事 前 : 日 本 国 憲 法 に お け る 基 本 的 な 人 権 を 確 認 し て お く 事 後 : 子 ど も の 権 利 条 約 に 関 す る レ ポ ー ト			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
5	基 本 と な る 子 ど も 家 庭 福 祉 の 体 系 と 関 連 法 規 に つ い て 説 明 す る				事 前 : テ キ ス ト 第 5 章 を 読 ん で お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
6	子 ど も 家 庭 福 祉 の 行 政 体 制 と 実 施 体 制 に つ い て 説 明 す る				事 前 : テ キ ス ト 第 6 章 を 読 ん で お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
7	日 本 の 子 ど も 福 祉 施 設 の 成 り 立 ち に つ い て 説 明 す る				事 前 : 保 育 士 資 格 で 勤 務 で き る 児 童 福 祉 施 設 を 調 べ る 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
8	子 育 て 支 援 施 策 や 地 域 に お け る 子 育 て 支 援 の 現 状 に つ い て 説 明 す る				事 前 : 居 住 地 域 の 保 育 施 設 数 を 調 べ る 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
9	子 ど も の 育 ち や 親 支 援 に 対 す る 母 子 保 健 の 必 要 性 に つ い て 説 明 す る				事 前 : テ キ ス ト 第 9 章 を 読 ん で お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
10	児 童 虐 待 等 の 要 因 や そ れ に 対 応 す る 法 制 度、支 援 に つ い て 説 明 す る				事 前 : 近 年 起 き た 児 童 虐 待 事 件 を 調 べ て お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
11	障 害 の あ る 子 ど も と そ の 家 庭 に 対 す る 施 設 や サ ー ビ ス 等 に つ い て 説 明 す る				事 前 : テ キ ス ト 第 11 章 を 読 ん で お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
12	社 会 的 適 応 が 難 し い 子 ど も へ の 福 祉 的 支 援 に つ い て 説 明 す る				事 前 : テ キ ス ト 第 12 章 を 読 ん で お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
13	ひ と り 親 家 庭 の 現 状 や 支 援、DV へ の 対 応 に つ い て 説 明 す る				事 前 : ひ と り 親 家 庭 の 実 態 に つ い て 調 べ て お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
14	子 ど も の 貧 困 に つ い て、現 状 や 支 援 策 に つ い て 説 明 す る				事 前 : 地 域 の 子 ど も 食 堂 な ど の 支 援 活 動 を 調 べ て お く 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
15	子 ど も 家 庭 福 祉 の 未 来 と 課 題 に つ い て 説 明 す る				事 前 : こ ど も 家 庭 庁 に つ い て 調 べ る 事 後 : リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー			講 義 70 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
高 玉 和 子 ・ 和 田 上 貴 昭、『こ れ か ら 学 ぶ ・ 理 解 す る 子 ど も 家 庭 福 祉』一 藝 社					授 業 の 中 で そ の 都 度 必 要 に 応 じ て 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (10%)、リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー 等 (40%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
子 育 て 家 庭 を 取 り 巻 く 社 会 状 況 や 問 題 に 関 す る 本 や 新 聞 記 事 な ど を 読 み、関 心 を 持 っ て 主 体 的 に 調 べ る こ と を 望 み ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	児童文学 (Children's Literature)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	横手 拓治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>明治の興隆期から宮澤賢治まで。近代日本に登場し、現代も読み継がれる児童文学の作家と作品を取りあげ読解するとともに、イメージ作りの方法、キャラクター設定、映像喚起力・オノマトペ表現の特徴なども含め講じる。なお授業の趣旨をふまえ、作者の価値観や作品世界を映像的・演劇的に解釈した、戦後の作品を上映・放送する回を挟んでゆく。小課題、双方向性のやり取りを適宜実施。</p> <p>授業目標：</p> <p>* 日本児童文学（童話）の魅力を学修し、それを通じて日本語の豊かさと創造性を把握する。  * 古典となった童話作品が近年のポップシーンにも刺激を与えている点を重視し、時代を超えた表現の力について理解を深める。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンスおよび明治の児童文学について。					事前：対象に知識を増やす 事後：授業素材の復習と再読		講義60分、応答30分	
2	浜田広介と「泣いた赤鬼」ほか。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
3	小川未明と「赤いろうそくと人魚」ほか。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
4	坪田譲治と生活童話。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
5	『赤い鳥』と鈴木三重吉。					事前：対象に知識を増やす 事後：授業素材の復習		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
6	新美南吉と「ごんぎつね」ほか。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
7	課題に合わせたワーク、宮澤賢治① 導入部。					事前：宮澤賢治の知識を得る 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
8	宮澤賢治② 評伝を中心に。					事前：賢治の知識を増やす 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、資料映像鑑賞30分、応答15分	
9	宮澤賢治③ 生前唯一の童話集『注文の多い料理店』。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
10	宮澤賢治④ 5大童話の第1回。「風の又三郎」「グスコーブドリの伝記」を扱う。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
11	賢治作品の鑑賞① アニメ「グスコーブドリの伝記」。					事前：対象に知識を増やす 事後：関連作品を読む		映像鑑賞中心	
12	宮澤賢治⑤ 5大童話の第2回。「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。アニメ作品鑑賞を含む。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義と読解30分、映像鑑賞60分	
13	宮澤賢治⑥ 5大童話の第3回。「ボラーノの広場」「銀河鉄道の夜」を扱い、「ざし童子(まっこ)のはなし」等小品も紹介。					事前：対象作品を読んでおく 事後：授業素材の復習と再読		講義45分、作品鑑賞と読解30分、応答15分	
14	賢治作品の鑑賞② 演劇動画「銀河鉄道の夜」。					事前：対象に知識を増やす 事後：関連作品を読む		講義と読解30分、映像鑑賞60分	
15	まとめの講義と、授業内最終課題の実施。					事前：全体の復習 事後：全体の再復習		講義45分、試験45分	
<p>教本：なし。授業ごとに対象作品とレジメを示す。Web上にあるテキストを案内する場合もある。</p> <p>参考文献：澤村修治『宮澤賢治のことば』（理論社）*本書は教員の筆名書籍である。 横手拓治「宮澤賢治はなぜ童話作家になったのか」（web公開）</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況（30%）、レポート・レビュー（40%）、定期課題（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>対象作品はよく読んでおくこと。なお授業で配るものもある。レジメ・作品は再読し、復習に活用すること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学 (Sociology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会学では、社会学のベーシックな考え方を身につけることを目的としています。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか(社会化) ③社会的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会的想像力／社会的思考を身につけることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義 70分・発表 20分	
2	「社会的存在としての自己」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的存在としての自己について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
3	「社会的想像力」とはなにか 社会学の基本的な考え方である社会的想像力について、考え、ディスカッションを通じてその重要性を理解してもらいます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
4	文化と社会 ブルデューの『ディスタンクシオン』を中心に階層について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
5	「社会化」とはなにか 社会の中でわれわれがどう育まれるかについて「社会化」という視点から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
6	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーの視点からより具体的に考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
7	家族における社会化 家族がどう変化し、なぜそういった変化が生じたか・どういった影響があるかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
8	学校における社会化 近年の教育問題は学校を取り巻く環境の変化が影響をしています。社会変化と学校の関係性を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
9	ヒドゥンカリキュラムから考える ヒドゥンカリキュラムから、学校で実際に何が伝達されているのかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
10	情報化社会の中の私 情報化社会の影響の大きさについて、子どもの影響から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
11	社会学史Ⅰ 古典ともいえる社会学者「コント」「デュルケイム」「ウェーバー」を中心に社会学がどう発展してきたのかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
12	社会学史Ⅱ 「機能主義」「コンフリクトの社会学」「シンボリックインタラクショニズム」といった社会学理論を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
13	社会学の手法Ⅰ 質的調査の特徴を理解し、どう活用すればいいかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
14	社会学の手法Ⅱ 量的調査について、各種調査データの読み取り方・活用の仕方等を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
15	まとめ					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	

<p>教本： なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。</p>	<p>参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ￥3,888 その他授業中に適宜紹介します。</p>
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。</p>	
<p>学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考力を身につけ、自分の考えを人に伝えるスキルを身につけることです。独学では難しいので、積極的に授業に参加し、一緒に考えていきましょう。</p>	
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>	

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 (Introduction to Sociology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 社会学では、社会学のベーシックな考え方を身につけることを目的としています。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか(社会化) ③社会的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。									
授業目標： 社会的想像力／社会的思考を身につけることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義 70分・発表 20分	
2	「社会的存在としての自己」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的存在としての自己について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
3	「社会的想像力」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的想像力について、考え、ディスカッションを通じてその重要性を理解してもらいます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
4	文化と社会 ブルデューの『ディスタンクシオン』を中心に階層について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
5	「社会化」とは何か 社会の中でわれわれがどう育まれるかについて「社会化」という視点から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
6	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーの視点からより具体的に考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
7	家族における社会化 家族がどう変化し、なぜそういった変化が生じたか・どういった影響があるかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
8	学校における社会化 近年の教育問題は学校を取り巻く環境の変化が影響をしています。社会変化と学校の関係性を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
9	ヒドゥンカリキュラムから考える ヒドゥンカリキュラムから、学校で実際に何が伝達されているのか考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
10	情報化社会の中の私 情報化社会の影響の大きさについて、子どもの影響から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
11	社会学史 I 古典ともいえる社会学者「コント」「デュルケイム」「ウェーバー」を中心に社会学がどう発展してきたのかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
12	社会学史 II 「機能主義」「コンフリクトの社会学」「シンボリックインタラクショニズム」といった社会学理論を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
13	社会学の手法 I 質的調査の特徴を理解し、どう活用すればいいか考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
14	社会学の手法 II 量的調査について、各種調査データの読み取り方・活用の仕方等を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
15	まとめ					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	

<p>教本： なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。</p>	<p>参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ￥3,888 その他授業中に適宜紹介します。</p>
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。</p>	
<p>学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考力を身につけ、自分の考えを人に伝えるスキルを身につけることです。独学では難しいので、積極的に授業に参加し、一緒に考えていきましょう。</p>	
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会心理学概論 (Social Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会心理学はその研究対象が極めて広いため、幾つかのトピックスを取り上げて授業を行う。本授業では主に、個人における対人認知のあり方や、集団内における対人関係性のあり方、及び集団が個人に対する意見や態度変容を促す要因や仕組みを学ぶ。授業形態は、講義はもちろんであるが履修生の自発的な関心を高めるために、討議や履修生の発表を中心として行う。									
授業目標： 各トピックスが内包する心理学的な知識の習得にとどまらず、各事例が有する問題点に気づき、自分なりに考え、解釈することが出来るようになるまでが目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	社会心理学の歴史、社会心理学の扱うテーマ・方法等の概略を学ぶ。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
3	傍観者効果、多元的無知の現象を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
4	社会的促進、社会的抑制、注意のコンフリクトの現象を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
5	メイヨーやレスリスバーガーが行った「ホーソン実験」、及び実験後に生まれた人間関係論を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
6	集団行動にみられる同調行動、集団斉一性、集団規範、集団凝集性の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
7	フェスティンガーが主張する「認知的不協和理論」と共に、「反態度的行動」の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
8	社会行動を理解するには、我々が有する「態度（社会的な態度）」と、態度を構成する認知的成分、感情的成分、行動的成分の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
9	社会的アイデンティティ、及びハイダーらが主張する「バランス理論」の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
10	自己知覚理論、内発的動機づけ、自己効力感の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
11	社会行動を理解するには、内集団、外集団、ステレオタイプ、偏見等の意味を考えることが重要であり、それらの現象の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
12	集団で話し合いを行い決定を下す際には、集団的浅慮、心理的拘泥現象等が関係する。これらの意味を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
13	説得的コミュニケーション、精緻化見込みモデルを学び意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
14	ジンバルドらによって実行されたスタンフォード監獄実験、並びに没個性化、社会的従属性の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 山岸俊男監修「徹底図解 社会心理学」(新星出版) ¥1,600	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等 (40%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	社会心理学実験演習 (Social Psychology Experimentation)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	心理学実験法、心理学統計法、データ処理入門を履修していることが望ましい							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本演習では、社会心理学の基本的な研究方法について、グループでの演習を行いながら学ぶ。基本的には、実験や調査によるデータ取得の方法とあわせてそのデータの解析方法を学び、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」から成る研究レポートを提出していただく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>実験・調査を体験し、研究レポートを作成することにより、人間の行動や内的状態を測定し、得られたデータから結論を導き出すプロセスを体得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、レポートの書き方					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	社会心理学実験・調査①：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
3	社会心理学実験・調査①：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
4	社会心理学実験・調査①：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
5	社会心理学実験・調査①：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
6	社会心理学実験・調査②：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
7	社会心理学実験・調査②：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
8	社会心理学実験・調査②：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
9	社会心理学実験・調査②：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
10	社会心理学実験・調査③：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
11	社会心理学実験・調査③：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
12	社会心理学実験・調査③：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
13	社会心理学実験・調査③：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
14	研究発表					事前：資料確認・課題検討 事後：演習内容の復習		発表 30分、 討議 60分	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		演習	
<p>教本：</p> <p>なし。授業中に資料を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（40%）、レポート（60%）で総合評価する。授業の3分の2以上に出席し、かつ3本のレポート全てを提出した場合にのみ、成績評価の対象となる。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>グループで行った実験・調査の結果をレポートにまとめていく演習であるため、授業への出席は、非常に重要である。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回授業日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	社 会 調 査 研 究 法 演 習 (Practical Training of Field Work)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	社 会 調 査 入 門、社 会 調 査 法、及 び 心 理 統 計 学 の す べ て の 単 位 を 修 得 済 み で あ る こと (必 須 条 件)							
	そ の 他	各 自 PC を 持 参 す る こと、演 習 と い う 性 質 上 履 修 生 は 10 名 以 内 と す る							
授 業 概 要 :									
<p>本 授 業 で は、社 会 調 査 研 究 法 の ま と め と し て、自 ら が 調 査 を 企 画 し、調 査 項 目 の 選 定 か ら 調 査 票 を 作 成 す る こ と が で き、さ ら に 得 ら れ た 調 査 デ ー タ に 基 本 的 な 検 定 を 行 い、調 査 報 告 書 を 作 成 で き る ま で を 授 業 の 到 達 目 標 と し ま す。こ の 目 標 に 到 達 す る に 当 た り、事 前 に 社 会 調 査 入 門、社 会 調 査 法、加 え て 心 理 統 計 学 お け る 様 々 な 知 見 が 必 ず 必 要 と な り ま す。本 授 業 に お い て は、講 義 の 部 分 は 極 力 削 減 し、各 人 の 演 習 を 中 心 と し ま す。授 業 評 価 は 調 査 報 告 書 の 手 続 き 上 で の 適 切 さ、結 果 の 処 理 や 考 察 の 完 成 度 を 対 象 と し て 行 い ま す。</p>									
授 業 目 標 :									
自 ら が 社 会 調 査 を 企 画 し、調 査 の 実 施 と 調 査 報 告 が 作 成 で き る こ と を 授 業 の 到 達 目 標 と し ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (評 価 方 法 と 学 び 方) を 行 う。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む こ と 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
2	調 査 の 企 画 ・ 準 備、調 査 票 の 作 成 手 続 き を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 振 り 返 り シ ー ト に 記 述		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
3	研 究 テ ー マ の 設 定、目 的 等 の 調 査 企 画 を 考 え る (1)					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 振 り 返 り シ ー ト に 記 述		講 義 30 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、実 習 30 分	
4	研 究 テ ー マ の 設 定、目 的 等 の 調 査 企 画 を 考 え る (2)					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 振 り 返 り シ ー ト に 記 述		講 義 30 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、実 習 30 分	
5	研 究 テ ー マ の 設 定、目 的 等 の 調 査 企 画 を 決 定					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 30 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、実 習 30 分	
6	参 考 文 献 の 収 集 と 仮 説 を 考 え、質 問 項 目 を 考 え る (1)					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 30 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、実 習 30 分	
7	参 考 文 献 の 収 集 と 仮 説 を 考 え、質 問 項 目 を 考 え る (2)					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 30 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、実 習 30 分	
8	質 問 項 目 を 決 定、調 査 票 の 作 成					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 30 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、実 習 30 分	
9	調 査 実 施					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 30 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、実 習 30 分	
10	調 査 デ ー タ の 入 力 作 業					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
11	調 査 結 果 の 分 析、作 図 ・ 作 表 の 作 成					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
12	統 計 検 定 法 を 用 い て の 分 析 (1)					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
13	統 計 検 定 法 を 用 い て の 分 析 (2)					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
14	調 査 報 告 書 作 成 作 業					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
15	報 告 書 修 正 作 業、調 査 報 告 書 提 出					事 前 : 全 体 を 復 習 す る。 事 後 : 再 度 全 体 を 復 習 す る		講 義 20 分、実 習 70 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
宮 本 和 彦 ・ 梶 原 隆 之 ・ 山 村 豊 編 「社 会 福 祉 士 シ リ ー ズ 5 社 会 調 査 の 基 礎」 (弘 文 堂、¥2,500)					日 花 弘 子 著 「で き る ビ ジ ネ ス パ ー ソ ン の た め の Excel 統 計 解 析 入 門」 (SB ク リ エ イ テ ィ ブ)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト (100%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 回 数 が 全 体 の 1 / 3 を 超 え る 場 合 に は、報 告 書 を 提 出 し て も 評 価 し な い の で 注 意 さ れ た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	社会調査入門 (Primary Social Research)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	統計に関わる授業を履修していることが望ましい							
	その他	各自 PC を持参すること							
<b>授業概要：</b> 社会調査とは何か、また調査結果をどのような形で分析に繋げることが出来るのか、という一連の過程を学ぶ。具体的には、得られた調査結果をエクセルのシート上に入力することに始まり、各人で初歩の統計法を用いることで調査対象が有する潜在的な特性を明らかにする。社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PCを用い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。									
<b>授業目標：</b> 社会調査の意味や手続きに加え、初歩の統計に関わる知識も学ぶ。この過程において、各自でPCを用い、エクセル上で初歩の分析ができ、かつ結果を正しく解釈できるまでを授業目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 90分	
2	社会調査の目的・種類、調査実施方法、数値の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分	
3	社会調査研究のプロセス、操作的定義と仮説の設定の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分	
4	社会調査の倫理、インフォームド・コンセントの意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分	
5	量的調査の性質、平均値、分散、標準偏差を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 70分、 ディスカッション 20分	
6	表計算シートのエクセルを用い、平均値・分散の意味、平均値や分散に関する計算の実習を行い、用語の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
7	エクセルシート上で例題を通じ、ヒストグラム分布を作成する手順を実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
8	引き続き履修生全員がエクセルシート上でヒストグラム分布を作成する手順を習得するまで実習を続ける。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
9	例題を通じて得られたヒストグラム分布結果を作図する実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
10	エクセルシート上で「データ分析ツール」を開き、基本統計量算出の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
11	SD法、カラーイメージの測定実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
12	カラーイメージ測定結果の入力方法、入力書式決定の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
13	カラーイメージの測定結果から基本統計量を算出し、結果を空間表示できるまでの実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
14	演習として行われた実習結果をレポートにまとめ、社会調査報告書の形式を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する		講義 90分	
<b>教本：</b> 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」（弘文堂）¥2,500					<b>参考文献：</b> 日花弘子著「できるビジネスパーソンのためのExcel統計解析入門」（SBクリエイティブ）				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト・レポート等（60%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	社 会 調 査 法 (Social Research)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	社 会 調 査 入 門 を 履 修 済 み で あ る こ と							
	そ の 他	各 自 PC を 持 参 す る こ と							
授 業 概 要 :									
社 会 調 査 入 門 で は、調 査 結 果 が 量 的 数 値 と し て 得 ら れ る 場 合 を 学 ん で き た が、本 授 業 で は 主 に 郵 送 調 査 や 電 話 調 査、様 々 な アン ケ ー ト に お い て 得 ら れ る 質 的 数 値 で の 調 査 法 を 学 ぶ。本 授 業 に お い て は 社 会 調 査 に 関 わ る 知 識 の み に と ど ま ら ず、PC を 用 い、各 自 で 表 数 計 算 用 の エ ク セ ル の 活 用 が で き る ま で と す る。									
授 業 目 標 :									
社 会 調 査 の 意 味 や 手 続 き に 加 え、初 歩 の 統 計 に 関 わ る 知 識 も 学 び、最 終 的 に 各 人 で 質 問 項 目 を 作 成 ・ 実 施 し、か つ 分 析 で き る ま で を 授 業 目 標 と す る。そ の 過 程 で エ ク セ ル シ ー ト を 活 用 し、デ ー タ 入 力、分 析、結 果 の ま と め と し て も 作 図 ・ 作 表 方 法 を 習 得 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (評 価 方 法 と 学 び 方) を 行 う。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む こ と 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
2	調 査 の 企 画 ・ 準 備、調 査 票 の 作 成 手 続 き を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 振 り 返 り シ ー ト に 記 述		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
3	調 査 の 実 施、母 集 団 と 標 本、無 作 為 抽 出 法 の 意 味 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 振 り 返 り シ ー ト に 記 述		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
4	質 的 調 査 の 特 徴 ・ 種 類、観 察 法 の 実 施 ・ 記 録 法 の 意 味 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 振 り 返 り シ ー ト に 記 述		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
5	質 問 紙 調 査 と プ ロ セ ス、調 査 票 の 基 本 構 成 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
6	質 的 社 会 調 査 の 実 際 例、研 究 デ ザ イ ン、デ ー タ 取 集 方 法 を 学 び、各 手 続 き を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
7	調 査 手 続 き を 理 解 す る た め、実 際 に 調 査 テ ー マ を 設 定 し、質 問 項 目 作 成、分 析、レ ポ ー ト 作 成 ま で を 実 習 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
8	実 際 に 行 う 調 査 の テ ー マ を、集 団 プ レ ー ン ス ト ー ミ ン グ を 通 じ て 話 し 合 い、調 査 目 的 を 設 定 す る ま で を 実 習 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
9	実 際 の 調 査 項 目 選 定 に 向 け、集 団 プ レ ー ン ス ト ー ミ ン グ を 通 じ て 話 し 合 い、調 査 項 目 を 設 定 す る ま で を 実 習 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
10	引 き 続 き 実 際 の 調 査 項 目 選 定 に 向 け、集 団 プ レ ー ン ス ト ー ミ ン グ を 通 じ て 話 し 合 い、調 査 票 の 作 成 ま で を 実 習 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
11	回 収 し た デ ー タ を エ ク セ ル シ ー ト 上 に 入 力 作 業 を 行 う。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
12	上 記 で 得 ら れ た 調 査 デ ー タ を 群 ご と に 区 分 し、再 度 項 目 毎 に 基 本 統 計 量 を 算 出 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
13	基 本 統 計 量 の 算 出、作 図 ・ 作 表 実 習 に 加 え、基 礎 的 な 統 計 検 定 法 を 用 い た 演 算 の 実 習 を 行 う。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
14	演 習 と し て 行 わ れ た 実 習 結 果 を レ ポ ー ト に ま と め、社 会 調 査 報 告 書 の 形 式 を 理 解 す る。					事 前 : 予 習 に 取 り 組 む 事 後 : 授 業 内 容 を 復 習 す る。		講 義 20 分、実 習 70 分	
15	ま と め ・ 全 体 を 振 り 返 る					事 前 : 全 体 を 復 習 す る。 事 後 : 再 度 全 体 を 復 習 す る		講 義 70 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
宮 本 和 彦 ・ 梶 原 隆 之 ・ 山 村 豊 編 「社 会 福 祉 士 シ リ ー ズ 5 社 会 調 査 の 基 礎」 (弘 文 堂) ¥ 2,500					日 花 弘 子 著 「で き る ビ ジ ネ ス パ ー ソ ン の た め の Excel 統 計 分 析 入 門」 (SB ク リ エ イ テ ィ ブ)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (60%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 回 数 が 全 体 の 1/3 を 超 え る 場 合 に は、受 験 し て も 評 価 し な い の で 注 意 さ れ た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会的養護 (Social Care)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学び、制度的な枠組み（施設養護・家庭養護）と実施体制を理解する。また、子ども家庭福祉の視点から、子どもの権利擁護の重要性と社会的養護の現状や課題について、演習を通して基礎的な知識を身につける。									
授 業 目 標 :									
1. 現代社会における社会的養護の意義と、その理念や基本原理（家庭的養護の推進等）について理解する。									
2. 社会的養護の歴史の変遷を学び、児童福祉法をはじめとする関連法規や制度の仕組みを理解する。									
3. 施設養護と家庭養護（里親・ファミリーホーム）のそれぞれの特徴と役割について学ぶ。									
4. 子どもの最善の利益と権利擁護の視点を持ち、社会的養護の担い手としての倫理と責務を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 （ 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	ガイダンス・社会的養護の理念と概念 ガイダンスと社会的養護の概念と理念、意義について学ぶ。					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分	
2	社会的養護の歴史の変遷 社会的養護の歴史の変遷について学ぶ。					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分	
3	社会的養護の今 子どもの育ちを取り巻く状況と、養育支援について学ぶ。					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分	
4	子どもの権利擁護 児童福祉法等に基づく子どもの権利擁護について学ぶ。					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分	
5	社会的養護の基本原則 社会的養護の基本的な考え方と、運営指針の原理を学ぶ。					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分	
6	社会的養護における保育士等の倫理と責務 保育士等の職務と、求められる倫理・責務について学ぶ。					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分	
7	社会的養護の制度と法体系 児童福祉法等の社会的養護に関連する法体系について学ぶ。					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分	
8	社会的養護のしくみと実施体系 措置制度や、社会的養護の実施体系の仕組みについて学ぶ。					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分	
9	社会的養護の対象 社会的養護を必要とする子どもや家庭の現状について学ぶ。					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分	
10	社会的養護の形態（1）家庭養護 家庭養護の形態について学ぶ。					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分	
11	社会的養護の形態（2）施設養護の概要 施設養護の全体像と、各施設の役割・機能について学ぶ。					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分	
12	社会的養護の形態（3）多様な施設 乳児院や児童養護施設以外の専門的施設の機能について学ぶ。					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分	
13	社会的養護の専門職（1） 社会的養護を担う専門職の種類と役割について学ぶ。					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分	
14	社会的養護の専門職（2） 専門職としての資質向上と、多職種との協働について学ぶ。					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分	
15	他機関・他職種との連携 社会資源の活用、関係機関とのネットワークについて学ぶ。					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使用しない。適宜、参考資料を配布。					「社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック」 ミネルヴァ書房 ¥3,080				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
制度や法律の仕組みに苦手意識を持たず、基本を押さえながら理解を深めてください。将来、社会的養護を必要とする子どもや家庭を支える立場で活かせる知識として、自分の学びにつなげていくことを意識するよう心がけてください。ディスカッションや質問を活用し、積極的に学ぶ姿勢を持って授業に参加することを期待します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修 (保 育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	社会的養護内容 (Social Care Content)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前 提 科 目	社会的養護							
	そ の 他	な し							
授業概要： 社会的養護（施設養護・里親養育）における具体的な支援の内容や方法について学び、子どもたちの生活支援や自立支援のあり方を考える。また、社会的養護を取り巻く現状や課題について理解し、子どもの権利擁護と最善の利益を守るために必要な実践的知識を身につける。									
授業目標： 1. 社会的養護における日常生活支援や治療的養護の意義と、その基本的な実施方法を理解する。 2. 施設や里親家庭における子どもとの関わりや関係構築の重要性を学び、個別的な支援計画(自立支援計画)に基づいた援助の視点を養う。 3. 被措置児童等の背景(虐待、障害など)や抱える課題を深く理解し、家庭支援や関係機関との連携を含めた包括的な支援の方法を考える。 4. 子どもの権利擁護と自立支援(リービングケア)の在り方を理解し、子どもの最善の利益を実現するための具体的な実践力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	ガイダンス・社会的養護における子どもの理解 社会的養護と被措置児童の現状について学ぶ。					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分	
2	施設養護における日常生活支援 日常生活支援の意味と実践について学ぶ。					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分	
3	施設養護における治療的支援 施設における治療的支援について学ぶ。					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分	
4	施設養護における自立支援 施設退所理由別の自立支援について学ぶ。					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分	
5	社会的養護におけるアフターケア アフターケアの基本と実際について学ぶ。					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分	
6	家庭養護の生活特性および実際 家庭養護の特性と実際について学ぶ。					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分	
7	継続的支援 継続的支援の意味と実際について学ぶ。					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分	
8	アセスメントと個別支援計画の作成 アセスメントと自立支援計画の策定について学ぶ。					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分	
9	記録および自己評価 記録の方法と活用、自己評価について学ぶ。					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分	
10	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 施設における保育士の役割と業務について学ぶ。					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分	
11	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 ソーシャルワークの援助過程について学ぶ。					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分	
12	社会的養護における家庭支援 入所児および地域家庭への支援について学ぶ。					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分	
13	フォスタリング フォスタリングの実際と機関について学ぶ。					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分	
14	社会的養護の課題と展望 社会的養護の課題と地域への還元について学ぶ。					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分	
15	社会的養護で働くということ 関係性の構築と開かれた養育について学ぶ。					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： 「社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック」 ミネルヴァ書房 ¥3,080 「よくわかる社会的養護Ⅱ」 ミネルヴァ書房 ¥2,860				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 制度や法律などの専門的な内容に苦手意識を持たず、基本を押さえながら理解を深めてください。将来、社会的養護を必要とする子どもや家庭を支える立場で活かせる知識として、自分の学びにつなげていくことを意識するよう心がけてください。ディスカッションや質問を活用し、積極的に学ぶ姿勢を持って授業に参加することを期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会福祉概論 (Introduction to Social Welfare)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 村 海 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
子ども・子育てを取り巻く環境は大きく変わり続け、保育の現場では保護者支援に力点が置かれるようになった。そのため、保育現場において社会福祉に関する知識や技術の必要性が増えてきている。そこで、本授業では、私たちの生活を支える社会福祉の仕組みについて理解し、福祉ニーズや課題、社会福祉の成り立ちや法制度、福祉サービス等を学び、少子高齢社会への対応について学ぶこととする。									
授 業 目 標 :									
1. 社会福祉の意義や目的を理解している									
2. 社会福祉制度について理解し、知識として活用できる									
3. 社会福祉の知識・技術を身につけ、福祉・保育等の現場で活用できる									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	授業オリエンテーション、社会福祉に関する身近な生活問題について説明する				事前：テキスト第1章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
2	社会福祉の歴史について説明する				事前：テキスト第2章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
3	社会問題（現代生活の中の悩み）について説明する				事前：テキスト第3章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
4	福祉サービスの供給について説明する				事前：テキスト第4章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
5	社会保障制度（年金、医療、公的扶助等）について説明する				事前：テキスト第5章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
6	相談援助の基盤と方法について説明する				事前：テキスト第6章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
7	地域社会の福祉資源の活用（地域福祉）について説明する				事前：テキスト第7章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
8	共生社会について説明し、事例検討を行う				事前：テキスト第8章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
9	児童虐待等の要因やそれに対応する法制度、支援について説明する				事前：テキスト第9章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
10	子育て環境の現状と支援について説明する				事前：テキスト第10章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
11	障害者の生活実態と支援について説明する				事前：テキスト第11章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
12	高齢者への福祉対応について説明する				事前：テキスト第12章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
13	権利擁護の仕組みについて説明する				事前：テキスト第13章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
14	日本と異なる文化・価値観（諸外国の福祉）について説明する				事前：テキスト第14章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
15	これから必要とされる社会福祉の課題への対応について説明する				事前：テキスト第15章を読んでおく 事後：リアクションペーパー			講義70分、 ディスカッション20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
高玉和子・和田上貴昭編著『これから学ぶ・理解する社会福祉』一藝社					授業の中でその都度必要に応じて指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等（10%）、リアクションペーパー等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
子育て家庭を取り巻く社会状況や問題に関する本や新聞記事などを読み、関心を持って主体的に調べることを望みます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	宗教史 (Religion)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 1. 宗教学とはなにかを理解する。 2. 日本の宗教の歴史について、特に日本の宗教について共に学び、考える。 3. 「日本の宗教」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本宗教の成り立ちやその基本的な思想・世界観を理解し、また、日本宗教が文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、宗教とは。日本宗教の形成と展開について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	(通史) 宗教の風景について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	(古代) 神々の世界 神社の歴史と役割について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	(古代) 儒教と道教と仏教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	(中古) 平安時代の宗教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	(中古) 平安仏教〔最澄・空海〕について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	(中世) 鎌倉仏教、法然・親鸞・栄西・道元・日蓮について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	(中世) 禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	(近世) 近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	(近世) 国学と国体について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	近代日本における政教分離の形成について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	一神教と多神教。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	宗教の未来。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： 授業時にプリント配付。					参考文献： 1. 末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006年（岩波新書） 2. 山折哲雄監修『宗教の事典』朝倉書店				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）と試験（50%）などで評価する。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 木曜日昼休み。総合研究センター（3号館7階、3716）									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	集団の社会心理学 (Social Psychology of Group-Behaviors)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： それぞれの集団間において、互いのコミュニケーションを図るために様々なジェスチャーやサイン行動等の表出を行っている。本授業では社会心理学並びに比較行動学の視点から、主になわばり行動（人間の空間行動）、身体的なサインやノンバーバルコミュニケーション行動を取り上げ、集団を含む社会行動の意味を理解する。									
授業目標： 我々が集団の一員として行う様々な社会行動の意味を学び、それらの意味と問題点が理解できることを、本授業の到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む		講義70分、 ディスカッション20分	
2	「動作」には生得的動作に始まり、発見動作、同化動作、訓練された動作に加え、獲得された混合動作があり、それらの動作の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
3	「ジェスチャー」には偶発ジェスチャー、表出ジェスチャー、模倣ジェスチャー等があり、各ジェスチャーの持つ意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
4	「サイン（合図）」には肯定・否定のサインや、凝視行動、歓迎と送別や挨拶を示す行動などが含まれる。我々が他者に示す様々なサイン行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
5	我々が安心感や安らぎを求める際には、「身体接触結合サイン」や「自己接触行動」等を表出する。これらのサインが有する意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
6	我々が肯定や否定を行う際には、「矛盾信号」や「不足信号」、及び「過剰信号」等の身体表出を行っている。これらのサインが有する意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
7	我々が示す「なわばり行動」すなわち「パーソナルスペース（空間行動）」は、我々の快—不快の感情とも密接な関係がある。我々が有する空間行動の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
8	我々が強敵から身を守る際には「身をすくめる」、「防衛する」に加え、「服従する」等の行動を取る。これらの行動の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
9	様々な争いの際に見られる「利他的行動」や「闘争行動」に加え、「勝利のディスプレイ」を示す。これらの行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
10	外部からの刺激が遮断されると、我々は様々な精神的不安定状態に置かれる。「ひきこもり」現象のように、外部刺激が遮断されることが自律神経信号に変調をもたらすことを理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
11	人を不快にさせる他者の表出行動には「軽蔑信号」や「威嚇行動」等があり、これらの行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
12	人は男らしさや女らしさの信号として「着衣信号」や「身体装飾」等を行うが、これらの信号の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
13	他者との接触を求める際に、我々は「親信号」や「幼児信号」等を表出する。これらの信号の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
14	集団で行われるスポーツ行動の歴史と意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義70分、 ディスカッション20分	

<p>教本：          デズモンド・モリス（藤田 統訳）「マンウォッチング 人間の行動学」、          小学館、¥4,800</p>	<p>参考文献：</p>
<p>成績評価の方法、評価基準：          小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>	
<p>学生へのアドバイス：          欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。</p>	
<p>オフィスアワー：          初回講義日に伝える。</p>	

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	集団間の対立と和解 (Conflict and Compromise among Groups)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 歴史的に見ても、様々な国や集団間において対立や和解が起きている。これらの対立や和解には、他の集団に対する偏見や社会的な態度が大きく関わっている。また偏見や社会的態度を構成する要因としては、様々な社会的な事象や出来事が大きく関与している。本授業においては、対立や和解を生じさせる各種の要因を取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する。									
授業目標： 集団間の対立と和解を生み出す幾つかの社会的な要因をトピックスとして取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を考え、理解できることを到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）					事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む		講義70分、 ディスカッション20分	
2	「グローバリゼーション」と「ソーシャルネットワーク」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
3	「うわさと流行の心理」と「報道と世論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
4	「社会的偏見と差別」と「社会的ジレンマ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
5	「集団主義文化と個人主義文化」と「都市環境と人の幸福」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
6	「社会的促進と社会的抑制」と「社会的手抜き」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
7	「同調行動」と「集団的浅慮」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
8	「リーダーシップ」と「集団規範」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
9	「マイノリティ・インフルエンサー」と「集団間葛藤と集団エゴイズム」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
10	「社会的アイデンティティ」と「没個性化」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
11	「子供どうしの人間関係」と「いじめ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
12	「自尊心と感情の関係」と「愛の三角理論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
13	「自己開示」と「自己呈示」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
14	「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、反転授業・プレゼンテーション40分、ディスカッション10分、PBL20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義70分、 ディスカッション20分	

教本： 無藤 隆・森敏 昭・池上知子・福丸由佳編 「よくわかる心理学」、ミネルヴァ書房、¥3,000	参考文献：
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	食文化と観光 (Food Culture and Tourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 我が国における食文化の現状と特性及び食文化を活かした観光の現状と分析、海外との比較と外国人観光客にとっての食の魅力等を学修することにより、食文化と観光の今後のあり方について探求する。									
授業目標： ①我が国の食文化の特性について理解する。 ②食文化と国内観光・国際観光の現状と今後の食文化観光 (Food Tourism) のあり方を考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	食文化と観光の構造：食文化と観光との関係について理解するための体系について学修する。また、味覚と環境：味覚の基本的な構造及び味覚と環境との関係について学修する。				事前：和食の魅力について調査する。 事後：食文化と観光について整理する。			ガイダンス10分、 講義(ディスカッション)80分	
2	和食の特徴：日本食の秀でているところ、世界遺産としての和食の認定要件等、日本料理の特徴について学修する。				事前：食の無形文化遺産について調査する。 事後：和食の特徴について整理する。			復習10分、 講義(ディスカッション)80分	
3	地域と食文化：地域の生活と密着して形成された食の素材・料理等における地域固有の食文化・地域特性について学修する。				事前：B級グルメについて事例検索する。 事後：食の地域性について整理する。			復習10分、 講義(ディスカッション)80分	
4	東西の食文化：食文化における観光の成立に大きな影響を与える、地形的特性及び東西地域文化の特性の空間的境目と食文化の差異について理解する。				事前：関西と関東の食文化の違いについて検索する。 事後：東西の食文化の違いをまとめる。			復習10分、 講義(ディスカッション)80分	
5	食観光の変遷：観光における食の体験の類型と、観光の変遷に伴う食体験の変容について学修する。				事前：江戸時代の食について調査する。 事後：食観光の今日における課題を整理する。			復習10分、 講義(ディスカッション)80分	
6	フードツーリズムとガストロノミーツーリズム：フードツーリズム及びガストロノミーツーリズムについて学修することにより、食文化と観光のあり方について深く考察する。				事前：フードツーリズムについて調査する。 事後：ガストロノミーツーリズムの意味を再考する。			復習10分、 講義(ディスカッション)80分	
7~11	食空間と観光：宿泊施設、食堂、路上(食べ歩き)、自然環境など観光における食と関連する場・施設やその内容の現状を把握することにより食と観光との関連について学修する。都市と食環境・港・市場と食環境、鉄道と食(観光列車、駅弁など)				事前：観光地の食事場所について検索する。 事後：食の場・施設と観光の関係について整理する。			復習10分、 講義(ディスカッション)80分	
12~14	ソールフードの特性：ラーメン、日本そばなど麺食などを中心に、地域の生活文化の中から生まれた食を検証することにより、食文化の形成について理解する。				事前：ソールフードの意味を理解する。 事後：時代における食の形成について検証する。			各回：復習10分、 講義(ディスカッション)80分	
15	塩文化と観光：塩の製造文化、塩の道、塩とエステ、塩と温泉など、塩と観光との連携について学修する。				事前：塩の効用と地域性について調査する。 事後：塩と観光との連携について整理する。			復習60分、 ディスカッション30分	
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中いつでも可。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	書 道 (Calligraphy)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 島 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 中学校国語科書写の学習指導に必要な知識、技能、指導法を学び、書写指導の必要性と意義を理解する。また、日本の伝統や文化の中で育まれた文字文化について理解し、身の回りの多様な表現に対応する思考力、表現能力を養う。楷書、行書の基本的な書き方を毛筆、硬筆の実習を通して理解する。									
授 業 目 標 : 書写に関する基礎的な知識、技法を身につけ、楷書、行書の書き方、指導法を習得する。文字文化の豊かさを理解し、日常的に文字を書く習慣を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	中学校国語科指導要領について理解する。 文房四宝など用具用材について、種類や使い方を学ぶ。					事前：シラバスを通読 事後：用具用材を揃える		講義50分 実技30分 質疑応答10分	
2	書道史を学び、漢字の変遷や書体、文字文化について理解する。 姿勢、執筆法を実習する。古典の各書体を臨書し理解する。					事前：書道史を調べる 事後：姿勢、執筆法を復習する		講義50分 実技40分	
3	楷書の基本点画、字形、配列、書き方を学ぶ。 楷書の基本用筆を実習する。					事前：楷書の書き方を調べる 事後：楷書の基本用筆を練習する		講義40分 実技50分	
4	楷書の筆順、文字の組み立て方を学び、実習する。 古典を臨書し、楷書の技法を習得する。古典を臨書する意義を学ぶ。					事前：古典の特徴を調べる 事後：楷書の技法を練習する		講義40分 実技50分 半紙に楷書を書いて提出	
5	中学書写の楷書指導を理解する。 指導法を実践する。(グループワーク)					事前：楷書の技法を纏める 事後：楷書の技法を練習する		楷書の特徴を発表10分 講義30分 実技50分	
6	行書の筆使い、筆脈など基本的な書き方を学ぶ。 古典を臨書し行書の技法を習得する。					事前：行書の書き方を調べる 事後：行書の基本用筆を練習する		講義40分 実技50分	
7	点画の省略・変形、筆順の変化など、行書の特徴を学ぶ。 行書の基本用筆を実習する。					事前：古典の特徴を纏める 事後：行書の技法を練習する		講義40分 実技50分 半紙に行書を書いて提出	
8	中学書写の行書指導を理解する。 指導法を実践する。(グループワーク)					事前：行書の指導法を纏める 事後：行書の技法を練習する		行書の特徴を発表10分 講義30分 実技50分	
9	同じ字を楷書と行書で書き、違いを理解する。 指導法を実践する。(グループワーク)					事前：楷・行書の指導法を纏める 事後：楷書、行書を練習する		講義30分 実技60分 半紙に書いて提出	
10	ひらがな、カタカナについて字源、書き方を学ぶ。 ひらがな、カタカナを筆で実習する。					事前：ひらがなの字源を調べる 事後：技法を練習する		講義40分 実技50分 半紙に書いて提出	
11	漢字と仮名を交えて書く書き方を学ぶ。目的に応じて書体を選び、効果的に書くことを理解する。行書に調和する仮名を実習する。					事前：生活の中の文字を調べる 事後：硬筆を練習する		字源小テスト10分 講義40分 実技40分	
12	硬筆について、筆記用具の持ち方、書き方を学ぶ。 楷書、行書、仮名交じり、縦書き、横書きを実習する。					事前：硬筆について調べる 事後：技法を練習する		講義40分 実技50分 硬筆用紙に書いて提出	
13	日本の古典から仮名を学ぶ。 書く文字を選び、漢字と仮名を交えてらし書きをする。					事前：書く文字を選定 事後：技法を練習する		講義30分 実技60分	
14	大字の書き方を学ぶ。 大字を書き、指導法を実践する。					事前：条幅に書く字を選定 事後：技法を練習する		講義30分 実技60分	
15	条幅に大字を書き、作品についてディスカッションし発表を行う。 授業のまとめ					事前：技法を練習する 事後：なし		実技60分 発表20分 まとめ10分 条幅を提出	
教 本 : 書の古典と理論 改訂版 (光村図書)					参 考 文 献 : 国語科書写の理論と実践 (萱原書房)				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点を加味する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 実技を通して、書き方、指導法を習得していきますので、積極的に学び、書写技術の向上を目指してください。									
オ フ ィ ス ア ワー : 事前に教科書を注文してください。道具については初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 基 礎 (Basic Course of Information Technologies)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也 ・ 金 宰 郁 ・ 鈴 木 秀 顕 ・ 山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	高 校 の 情 報 科 目 の 基 本 的 な コ ン ピ ュ ー タ ス キ ル の 習 得 が 不 十 分 な 学 生 は 必 ず 履 修 す る こ と を 勧 め る 。							
授 業 概 要 :									
学 生 生 活 に お い て 不 可 欠 で あ る コ ン ピ ュ ー タ お よ び イ ン タ ー ネ ッ ト を 活 用 す る 基 本 能 力 の 育 成 を 目 標 と し、コ ン ピ ュ ー タ 利 用 の 基 礎 と な る 技 術 を 学 ぶ と 同 じ に、コ ン ピ ュ ー タ 利 用 の マ ナ ー や 情 報 倫 理 な ど を 中 心 に 講 義 を 進 め る。今 後、高 度 情 報 化 社 会 へ 進 む 上 で の 第 一 歩 を 踏 み 出 す た め の 基 本 に つ い て、演 習 を 通 じ て 学 習 す る。									
授 業 目 標 : 具 体 的 に は 下 記 の 項 目 を 身 に つ け る こ と を 目 標 と し、授 業 を 行 う。									
1. コ ン ピ ュ ー タ 利 用 の マ ナ ー や 情 報 倫 理 の 理 解 2. コ ン ピ ュ ー タ を 用 い た 文 書 作 成 や 表 計 算 の 利 用 ス キ ル 3. イ ン タ ー ネ ッ ト 活 用 ス キ ル 4. 学 生 生 活 ・ 社 会 生 活 に 必 要 な ICT を 活 用 す る 基 本 ス キ ル									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	こ の 授 業 科 目 に 関 す る ガ イ ダ ン ス お よ び 自 己 紹 介 文 作 成 ・ 提 出 す る。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 情 報 に つ い て 調 べ る		講 義 70 分、発 表 20 分	
2	タイピングソフトの紹介、大学コンピュータ、ネットワーク、Gメール、Gドライブの使い方、及びキーボードの操作を説明する。					事 前 : ID、パ ス ワ ー ド を 用 意 す る 事 後 : 授 業 関 連 課 題 を 行 う		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読込みなどを習得し、その課題を行う。					事 前 : W i n d o w O S に つ い て 調 べ る 事 後 : タ イ プ イ ン グ を 練 習 す る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
4	スクリーンショットの使い方、タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。					事 前 : ペ イ ン ト に つ い て 調 べ る 事 後 : 絵 描 き ソ フ ト を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成、その課題を行う。					事 前 : 文 書 形 式 に つ い て 調 べ る 事 後 : 授 業 関 連 課 題 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成、その課題を行う。					事 前 : 文 字 揃 え な ど を 調 べ る 事 後 : 文 字 揃 え な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。					事 前 : 段 組 な ど を 調 べ る 事 後 : 段 組 な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。					事 前 : 表 作 成、表 編 集 を 調 べ る 事 後 : 表 作 成、表 編 集 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
9	タイピングソフト練習、英語文書作成(段組み、ドロップキャップ、ページ罫線)し、その課題を行う。					事 前 : 英 語 文 書 を 調 べ る 事 後 : 英 語 文 書 作 成 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。					事 前 : 図 形 描 画 を 調 べ る 事 後 : 図 形 描 画 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。					事 前 : ト リ ミ ン グ を 調 べ る 事 後 : ト リ ミ ン グ な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。					事 前 : 数 式 入 力 を 調 べ る 事 後 : 数 式 入 力 な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
13	タイピングソフト練習、文書(レポート)作成を行い、その課題を提出する。					事 前 : レ ポ ー ト 文 書 を 調 べ る 事 後 : レ ポ ー ト 文 書 作 成 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
14	タイピングソフト練習、文書(論文)作成を行い、その課題を提出する。					事 前 : 論 文 文 書 を 調 べ る 事 後 : 論 文 文 書 作 成 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。					事 前 : 総 合 課 題 を 作 成 す る。 事 後 : 総 合 課 題 を 提 出 す る		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『大 学 生 の た め の 情 報 処 理 演 習 』 (立 野 貴 之、共 立 出 版)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
出 席、授 業 に 対 す る 姿 勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。									
出 席・授 業 に 対 す る 姿 勢 (30%)、タイピングテスト (20%)、提出課題 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
や む を 得 ず 欠 席 し た 授 業 内 容 な ど に 関 し て は、授 業 内 容 に 関 し て 友 人 に 確 認、教 員 に 質 問 を す る な り し て、欠 席 の 遅 れ を 取 り 戻 す よ う に し て 下 さ い。質 問 は、メ ー ル ま た は、オ フ ィ ス ア ワ ー に 受 け 付 け ます。指 定 ク ラ ス 以 外 で の 履 修 は 抽 選 と な り ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 検 索 論 (Information Retrieval Theory)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 :									
<p>情報検索の技術は、大容量の多種多様な情報資源の中から必要な情報を効率的に見つけ出すために重要な基盤技術である。本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術について学ぶ。また、近年急速に普及している生成 AI を活用した情報検索技術についても学ぶ。合わせて、具体的な検索対象を想定した演習により、効率的な情報検索方法を理解する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術を理解するとともに、必要な情報を効率的に得るための情報検索方法の修得も目指す。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、情報検索技術の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	情報検索システムの構成と処理概要					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	文書の収集・変換					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	索引付け					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	検索モデル					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	問い合わせ処理とユーザインターフェース					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
7	情報検索システムの性能評価、分類とクラスタリング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	ソーシャル検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	各種メディアの検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
10	多言語情報アクセス					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
11	テキストマイニング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
12	生成 AI 技術の概要と AI 利活用ガイドライン					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
13	情報検索手法の基礎と生成 AI 技術を活用した検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
14	情報検索演習 I					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	情報検索演習 II					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講義初回のガイダンスで指示する。					講義内で指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小テスト・レポート等 (100%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 シ ス テ ム 概 論 (Introduction to Computer Systems)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	情 報 処 理 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
情 報 シ ス テ ム の 役 割 、 情 報 技 術 、 情 報 リ テ ラ シ ー の 必 要 性 、 情 報 収 集 ・ 加 工 ・ 分 析 、 情 報 の 表 現 、 論 理 的 思 考 、 ネ ッ ト ワ ー ク 化 に よ る 資 源 の 共 有 、 イ ン タ ー ネ ッ ト の 概 要 、 電 子 メ ー ル に よ る 業 務 の 効 率 化 、 グ ル ー プ ウ ェ ア と そ の 機 能 な ど に つ い て 学 習 す る 。									
授 業 目 標 :									
情 報 シ ス テ ム の 構 成 要 素 で あ る コ ン ピ ュ ー タ な ど の ハ ー ド ウ ェ ア 、 ネ ッ ト ワ ー ク そ し て 、 ソ フ ト ウ ェ ア ま で の 基 本 的 な 知 識 が 理 解 ・ 修 得 が でき て 、 ま た 実 際 の ビ ジ ネ ス の 中 で 情 報 シ ス テ ム が ど の よ う に 活 用 さ れ て い る か 、 理 解 でき る こ と を 学 習 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、授業科目名である情報システムについて説明し、確認をする。					事前：教科書の準備をする 事後：情報について調べる		講義 80分、 ディスカッション 10分	
2	情報の歴史から現在のコンピュータの開発経緯まで説明し、その後、課題を行う。					事前：情報の歴史について調べる 事後：コンピュータ経緯を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	データの基礎的表現について説明する。n進数の相互変換について、その関係を含めて、理解し、その課題を行う。					事前：n進数について調べる。 事後：n進数を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	コンピュータ内で、数値、文字、画像、音声などのデータについて構造を説明する。その後、課題を行う。					事前：各種データについて調べる 事後：各種データを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	アナログ信号をデジタル信号に変換する原理を説明し、プログラミングを用いて課題を行う。					事前：デジタル信号を調べる 事後：デジタル信号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	コンピュータの5大装置(入力、制御、記憶、演算、および出力装置)について学習する。その後、課題を行う。					事前：コンピュータ仕組みを調べる 事後：コンピュータの5大装置を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	ソフトウェアの基本構成(基本ソフトウェア、ミドルウェア、及び応用ソフトウェア)について理解し、その後、課題を行う。					事前：ソフトウェアを調べる 事後：ソフトウェアを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	OS (Operating System) のプログラム、および役割(種類、構成等)について理解し、その後、課題を行う。					事前：OSについて調べる 事後：OSを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	言語処理ソフトウェアの機械語、アセンブラ言語、及び高水準言語の種類及びその処理方式について学習し、課題を行う。					事前：言語処理を調べる 事後：言語処理を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について説明する。その後、課題を行う。					事前：FAT32,NTFS等を調べる 事後：ファイルシステムを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	ネットワーク(プロトコルとOSI参照モデルなど)と情報システムについて説明し、課題を行う。					事前：OSI参照モデルを調べる 事後：OSI参照モデルを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	ネットワーク基礎について学習する。その後、課題を行う。					事前：伝送速度について調べる 事後：インターネットを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	データベースの構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習し、課題を行う。					事前：データベースを調べる 事後：データベースを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	ソフトウェアの開発と保守の考え方及び情報セキュリティと重要性を理解し、その方法を学習し、課題を行う。					事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	コンピュータの構成や動作原理などを復習し、開発保守や情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する		講義 40分、 ディスカッション 50分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
な し					「情報システム概論、和泉順子他、サイエンス社、2018」				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 でき た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (40%)、課 題 (30%)、発 表 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
初 回 の 授 業 に 必 ず 出 席 す る こ と 。 情 報 シ ス テ ム の 基 礎 知 識 (定 義) を 事 前 に 調 べ る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 職 業 論 (Information Vocational Theory)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
現代社会における職業は、情報によるDXが進められており、今までのビジネスモデルを理解するとともに、これからのビジネスモデルまでも理解する必要が出てくる。それらビジネスモデルについて、知見を得るとともに、議論により理解を深める。									
授 業 目 標 :									
デジタルビジネスモデルやデザイン思考、イノベーション理論を理解し、デジタルトランスフォーメーションDXに対する考え方を身につける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス「DXの基礎知識」					事前：精読①(21-52) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
2	「DXを支えるテクノロジー」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①(53-81) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
3	「データ分析の基礎」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①(83-108) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
4	「ビジネスモデルの立案・実行と組織の動き方」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①(109-130) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
5	「組織にとってのDXと定着法」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読①(131-154) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
6	「DXに取り組むに当たり考えておくべき社会との関係性」について学習した内容をもとに、ディスカッションを行う。					事前：精読①(155-180) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
7	「データサイエンスとは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(14-24) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
8	「機械学習の基本とその精度評価」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(36-43) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
9	「データの可視化」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(48-64) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
10	「テキストマイニング」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(68-79) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
11	「ディープラーニング」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(80-102) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
12	「オープンデータとは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(108-116) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
13	「オープンデータの成り立ち」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(118-129) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
14	「データと倫理」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行う。					事前：精読②(132-143) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
15	データサイエンスによるSDG s 課題解決への取り組み					事前：精読②(148-161) 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
①『DXの教養』(インプレス)					①『デジタル・ビジネスモデル』(日本経済新聞出版社)				
②『データサイエンスリテラシー』(実教出版)					②『ワイヤレスIoTプランナーテキスト』(リックテレコム)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
ビ ジ ネ ス モ デ ル を 中 心 に 考 察、議 論 し て い き ま す。事 前 準 備 を し っ か り し て か ら 臨 ん で く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 処 理 概 論 (Basic Course of Information Technologies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也 ・ 金 宰 郁 ・ 鈴 木 秀 顕 ・ 山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	高 校 の 情 報 科 目 の 基 本 的 な コ ン ピ ュ ー タ ス キ ル の 習 得 が 不 十 分 な 学 生 は 必 ず 履 修 す る こ と を 勧 め る 。							
授 業 概 要 :									
学 生 生 活 に お い て 不 可 欠 で あ る コ ン ピ ュ ー タ お よ び イ ン タ ー ネ ッ ト を 活 用 す る 基 本 能 力 の 育 成 を 目 標 と し、コ ン ピ ュ ー タ 利 用 の 基 礎 と な る 技 術 を 学 ぶ と 同 じ に、コ ン ピ ュ ー タ 利 用 の マ ナ ー や 情 報 倫 理 な ど を 中 心 に 講 義 を 進 め る。今 後、高 度 情 報 化 社 会 へ 進 む 上 で の 第 一 歩 を 踏 み 出 す た め の 基 本 に つ い て、演 習 を 通 じ て 学 習 す る。									
授 業 目 標 : 具 体 的 に は 下 記 の 項 目 を 身 に つ け る こ と を 目 標 と し、授 業 を 行 う。									
1. コ ン ピ ュ ー タ 利 用 の マ ナ ー や 情 報 倫 理 の 理 解 2. コ ン ピ ュ ー タ を 用 い た 文 書 作 成 や 表 計 算 の 利 用 ス キ ル 3. イ ン タ ー ネ ッ ト 活 用 ス キ ル 4. 学 生 生 活 ・ 社 会 生 活 に 必 要 な ICT を 活 用 す る 基 本 ス キ ル									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	こ の 授 業 科 目 に 関 す る ガ イ ダ ン ス お よ び 自 己 紹 介 文 作 成 ・ 提 出 す る。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 情 報 に つ い て 調 べ る		講 義 70 分、発 表 20 分	
2	タイピングソフトの紹介、大学コンピュータ、ネットワーク、Gメール、Gドライブの使い方、及びキーボードの操作を説明する。					事 前 : ID、パ ス ワ ー ド を 用 意 す る 事 後 : 授 業 関 連 課 題 を 行 う		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読み込みなどを習得し、その課題を行う。					事 前 : WindowOS に つ い て 調 べ る 事 後 : タイピングを練習する		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
4	スクリーンショットの使い方、タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。					事 前 : ペ イ ン ト に つ い て 調 べ る 事 後 : 絵 描 き ソ フ ト を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成、その課題を行う。					事 前 : 文 書 形 式 に つ い て 調 べ る 事 後 : 授 業 関 連 課 題 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成、その課題を行う。					事 前 : 文 字 揃 え な ど を 調 べ る 事 後 : 文 字 揃 え な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。					事 前 : 段 組 な ど を 調 べ る 事 後 : 段 組 な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。					事 前 : 表 作 成、表 編 集 を 調 べ る 事 後 : 表 作 成、表 編 集 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
9	タイピングソフト練習、英語文書作成(段組み、ドロップキャップ、ページ罫線)し、その課題を行う。					事 前 : 英 語 文 書 を 調 べ る 事 後 : 英 語 文 書 作 成 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。					事 前 : 図 形 描 画 を 調 べ る 事 後 : 図 形 描 画 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。					事 前 : ト リ ミ ン グ を 調 べ る 事 後 : ト リ ミ ン グ な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。					事 前 : 数 式 入 力 を 調 べ る 事 後 : 数 式 入 力 な ど を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
13	タイピングソフト練習、文書(レポート)作成を行い、その課題を提出する。					事 前 : レ ポ ー ト 文 書 を 調 べ る 事 後 : レ ポ ー ト 文 書 作 成 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
14	タイピングソフト練習、文書(論文)作成を行い、その課題を提出する。					事 前 : 論 文 文 書 を 調 べ る 事 後 : 論 文 文 書 作 成 を 纏 め る		講 義 40 分、実 習 10 分、 課 題 40 分	
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。					事 前 : 総 合 課 題 を 作 成 す る。 事 後 : 総 合 課 題 を 提 出 す る		講 義 50 分、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
教 本 : 参 考 文 献 :									
『文科系学生のための情報活用』(立野貴之、共立出版)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
出 席、授 業 に 対 す る 姿 勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。									
出 席・授 業 に 対 す る 姿 勢 (30%)、タイピングテスト (20%)、提出課題 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
や む を 得 ず 欠 席 し た 授 業 内 容 な ど に 関 し て は、授 業 内 容 に 関 し て 友 人 に 確 認、教 員 に 質 問 を す る な り し て、欠 席 の 遅 れ を 取 り 戻 す よ う に し て 下 さ い。質 問 は、メ ー ル ま た は、オ フ ィ ス ア ワ ー に 受 け 付 け ます。指 定 ク ラ ス 以 外 で の 履 修 は 抽 選 と な り ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 セ キ ュ リ テ ィ 論 (Information Security)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	情 報 セ キ ュ リ テ ィ 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : この授業では、情報システムとネットワークなどで重要になっているセキュリティ技術および関連するソフトウェア技術を、コンピュータで実習を行いながら習得する。									
授 業 目 標 : 企業にとっての情報管理の本質である機密性、一貫性及び可用性の確保とは何かを理解し、そのために必要な情報セキュリティの問題の本質を理解しながら、情報セキュリティの基礎と応用の最新技術を習得する。プログラミングを用いて演習も行う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、 授業科目名である情報セキュリティについて説明する。					事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる		講義 80分、ディスカッション 10分	
2	情報セキュリティの必要性、対策について説明し、その後、課題を行う。					事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	不正攻撃（ハッカーとクラッカー、及びサイバーテロ）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ハッカーを調べる 事後：不正攻撃を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	不正攻撃（DoS、トロイの木馬、及びセキュリティホールなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：トロイの木馬を調べる 事後：不正攻撃を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	ウイルス（不正プログラムの種類、ウイルスの種類、及びワームなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ウイルスを調べる 事後：ウイルスを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	共通鍵暗号（DES、3DES、AESなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：共通鍵暗号について調べる 事後：共通鍵暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	公開鍵暗号（RSAなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：RSAについて調べる 事後：公開鍵暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	ブロック暗号のモード（ECBモード、CBCモードなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ブロック暗号を調べる 事後：ブロック暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	ハイブリッド暗号システムについて学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ハイブリッド暗号を調べる 事後：ハイブリッド暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	一方向ハッシュ関数（MD5、SHA-3など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：MD5について調べる 事後：ハッシュ関数等を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	メッセージ認証子（MAC、HMACなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：MACについて調べる 事後：メッセージ認証子を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	デジタル署名（技術、利用など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：デジタル署名を調べる 事後：デジタル署名を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	ステガノグラフィと電子透かしについて学ぶ。その後、課題を行う。					事前：電子透かしを調べる 事後：電子透かしを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	鍵・乱数・応用技術について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：暗号技術の鍵、乱数を調べる 事後：暗号技術の鍵・乱数を纏める		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する		講義 40分、ディスカッション 50分	
教 本 :					参 考 文 献 : 情報セキュリティ概論、瀬戸洋一 他著				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等（40%）、課題（40%）、発表（20%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 情報セキュリティの概要と基礎理論の基礎知識（定義）を事前に調べる。予習・復習を行い、授業には欠席しないこと。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 理 論 (Information Theory)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 情報データを数論的に取り扱う理論とデジタル表現に変換する方法を学ぶ。次に、デジタル情報データについて、圧縮したり、誤りが生じたときにそれを検出・訂正したり、情報を暗号化したりする方法について説明する。数値・文字・音声・画像・動画などのさまざまな形態の情報が、その特性に応じてどのような方式でデジタル情報として処理されているかを解説する。									
授 業 目 標 : 情報データの圧縮、誤り検出・訂正、暗号化、符号化の方法について理解する。数値・文字・音声・画像・動画を実際にデジタル化する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、授業科目名であるメディア技術について説明し、確認をする。					事前：教科書の準備をする。 事後：メディア関連書を調べる。		講義 80分、ディスカッション 10分	
2	メディア技術において数学的準備である情報（数値データ）のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。					事前：n進数について調べる。 事後：数値データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	メディア技術において数学的準備である情報（文字データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：文字データを調べる。 事後：文字データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。					事前：バイナリデータを調べる。 事後：バイナリデータを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	メディア技術において数学的準備である情報（画像データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：画像データを調べる。 事後：画像データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	メディア技術において数学的準備である情報（音声データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：音声データを調べる。 事後：音声データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。					事前：RGB,CMYKを調べる。 事後：RGB,CMYKを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	オープンネットワーク社会におけるメディア技術の概要、および動向を説明し、課題を行う。					事前：メディア技術を調べる。 事後：メディア技術の概要、および動向を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	メディア技術の処理基礎である情報圧縮技術について説明し、課題を行う。					事前：情報圧縮技術を調べる。 事後：情報圧縮技術を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	メディア技術の処理基礎である音声、音響符号化、および復号化技術について説明し、課題を行う。					事前：音響符号化を調べる。 事後：音響符号化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	メディア技術の処理基礎である画像圧縮、および符号化について説明し、課題を行う。					事前：画像圧縮、符号化を調べる。 事後：画像圧縮、符号化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	メディア技術の処理基礎である復号化技術について説明し、課題を行う。					事前：復号化技術を調べる。 事後：復号化技術を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	マルチメディア作品として動画制作をしながら、コンセプトシート（テーマ、企画立案、構成など）を作成する。					事前：SNSについて調べる。 事後：コンセプトシートを纏める。		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
14	動画制作の最終確認を行う。コンセプトシートを提出する。					事前：動画の編集を行う。 事後：動画の最終確認を行う。		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	課題発表会にて動画を上映し、評論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り。		発表 60分、ディスカッション 30分	
教 本 : なし					参 考 文 献 : なし				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 初回の授業に必ず出席すること。情報理論の基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 倫 理 (Information Ethics)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 情報社会が進展している。その中には、本来知るべき情報のほか、人々が興味を持つことだけが優先されてしまうためにフェイクニュースなども出回ってしまっている。それは、人としての倫理観が失われていることにほかならない。本講義では、情報社会における倫理観を知り、醸成するとともに現代社会のニュースによるディスカッションを行うことにより理解を深める。									
授 業 目 標 : 本講義の目的は、情報倫理の基本的な考え方を身につけ、ニュース時事能力検定3級程度の実力を身につけることである。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	情 報 倫 理 の 必 要 性 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
2	情 報 通 信 社 会 と イ ン タ ー ネ ッ ト、進 化 と 変 遷 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (21-34) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
3	ネ ッ ト 時 代 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (35-47) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
4	メ デ ィ ア の 変 遷 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (49-61) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
5	メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (63-76) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
6	情 報 技 術 と セ キ ュ リ テ ィ (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (77-88) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
7	イ ン タ ー ネ ッ ト と 犯 罪 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (89-100) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
8	個 人 情 報 と プ ラ イ バ シ ー (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (101-114) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
9	知 的 所 有 権 と コ ン テ ン ツ (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (115-128) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
10	企 業 と 情 報 倫 理 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (129-140) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
11	科 学 技 術 と 倫 理 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (141-153) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
12	ビ ッ グ デ ー タ と AI の 倫 理 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (155-169) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
13	デ ジ タ ル デ バ イ ド と ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イン (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (171-184) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
14	S N S と 情 報 モ ラ ル (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (185-196) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
15	情 報 通 信 社 会 と リ テ ラ シ ー (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン)					事 前 : 精 読 (197-204) 事 後 : 議 論 レ ポ ー ト の 作 成		講 義 45 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 45 分	
教 本 : 『情報倫理』(技術評論社)					参 考 文 献 : ① 2025 年 度 版 ニ ュ ー ス 検 定 公 式 テ キ ス ト & 問 題 集 「時 事 力」基 礎 編 (3・4 級 対 応) ② 『倫理資本主義の時代』(ハヤカワ新書)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 事 前 準 備 と し て、テ キ ス ト の 精 読 は 準 備 し て お い て く だ さ い。ま た、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン は ニ ュ ー ス に 基 づ い た テ ー マ に よ り 行 わ れ ま す。常 に ニ ュ ー ス を 気 に し つ つ、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン へ は 積 極 的 に 参 加 す る よ う に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	人 口 問 題 (Population Problems)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 広 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	メー ル お よ び 授 業 Website を 定 期 的 に チェック する 事 が でき る 事							
授 業 概 要 :									
<p>人類の始まりから現在に至るまで、これまで約1080億人のヒトが地球上に生を受け、その約7%にあたる約70億人が、今、地球上に暮らしています。地球上に、かつて、これだけの人々が暮らしていた時代はありません。そして、この数は、今後もさらに増え続けると予測されています。本授業では、人口の増減および人口構成の変化が作り出す社会・経済・環境問題について学習します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>人口学の基本的なコンセプトを理解する。人口増加・減少が経済や社会、環境問題にどのような影響を与えているかを理解する。</p>									
カ リ キュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イ ン ト ロ ダ ク シ ョ ン					事 前 : Lutz (Introduction). 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
2	人 口 学 の 基 本 的 な コ ン セ プ ト					事 前 : Lutz (Ch.1) 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
3	人 口 代 謝 の 理 論					事 前 : Lutz (Ch.2-1) 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
4	人 口 転 換 の 理 論					事 前 : Lutz (Ch.2-2) 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
5	人 口 配 当 の 理 論					事 前 : Lutz (Ch.2-3) 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
6	人 間 の 寿 命 と そ の 決 定 要 因					事 前 : 講 義 資 料 の 予 習 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
7	将 来 人 口 の 推 計					事 前 : Lutz (Ch4) 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
8	結 婚 と 離 婚					事 前 : 講 義 資 料 の 予 習 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
9	ビ ジ ネ ス と 人 口 学					事 前 : 講 義 資 料 の 予 習 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
10	都 市 化					事 前 : 講 義 資 料 の 予 習 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
11	貧 困 の 計 測					事 前 : 講 義 資 料 の 予 習 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
12	人 口 移 動 の 人 口 学					事 前 : 講 義 資 料 の 予 習 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
13	移 民 の 人 口 学					事 前 : 講 義 資 料 の 予 習 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
14	気 候 変 動 と 人 口					事 前 : Lutz (Ch4) 事 後 : 講 義 資 料 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : レポ ー ト 課 題 事 後 : レポ ー ト 課 題		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Lutz, W. (2021) "Advanced Introduction to Demography", Edward Elgar Publishing					マ ッ シ ム ・ リ ヴ ィ ー バ ッ チ 著 (2014) 『人 口 の 世 界 史』、東 洋 経 済 新 報 社 Wachter, K.W. (2014). "Essential Demographic Methods". Harvard University Press				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 出 席 態 度 重 視 小 テ ス ト ・ レポ ー ト 等 (100%) で 総 合 評 価 する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 人 口 学 は、単 純 な 学 問 の よう で す が、そ れ だ け に 応 用 範 囲 が 非 常 に 広 い 学 問 で す。ぜ ひ 自 分 の 関 心 と 結 び 付 け て み て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	人的資源管理論 I (Human Resources Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講義では事例を活用しながら、企業などの組織における人的資源管理とは何かについて考えてみる。前半は人的資源管理の基本を理解し、後半は人的資源管理の各分野を知る。									
<b>授業目標：</b> 1. 企業の人的資源管理への関心を高める。 2. 事例研究を通して、企業が直面する人的資源管理に関する課題を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（人的資源管理論の研究対象と学び方）					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	企業経営と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
3	人的資源管理の基本的課題					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
4	人的資源管理の諸機能①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
5	人的資源管理の諸機能②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
6	従業員のモチベーション①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
7	従業員のモチベーション②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
8	ミニテスト①（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
9	リーダーシップとは何か①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
10	リーダーシップとは何か②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
11	組織と従業員の関係					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
12	組織構造と職務内容①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
13	組織構造と職務内容②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
14	ミニテスト②（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	人的資源管理の諸課題をどう見るか (企業を見るために私たちが持つべき視点を整理する)					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
<b>教本：</b> 奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』 中央経済社、2010年。					<b>参考文献：</b> 授業中に適宜文献を紹介する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	人的資源管理論Ⅱ (Human Resources Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	担当教員による人的資源管理Ⅰを履修していること							
	その他	なし							
授業概要： 人的資源管理Ⅰの内容を深め、企業が抱える経営課題を整理しながら人的資源管理の問題を掘り下げる。社会の状況を踏まえつつ、人的資源管理の方向性を考えていく。									
授業目標： 1. グローバリゼーションが人的資源管理に与えた影響を理解する。 2. 企業における人的資源管理の重要性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（①講義全体の流れ ②人的資源管理の諸分野の概略）					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	モチベーション戦略と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
3	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
4	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
5	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
6	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
7	ミニテスト ①（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
8	就業形態多様化と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
9	就業形態多様化と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
10	女性労働者の能力活用と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
11	優良企業の研究－事例研究－ ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分	
12	優良企業の研究－事例研究－ ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分	
13	外国人労働者の人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
14	ミニテスト ②（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ（人的資源管理の方向性について考える）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
教本： 奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』 中央経済社、2010年。					参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	人 的 担 保 法 (Personal Collateral Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	法 学 / 私 法 学 I / 私 法 学 II / 物 権 法							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本講義では、債権総則を中心に講義を行いません。弁済、債務不履行、責任財産の保全といった債権総則の基本を学習したうえで、人的担保としての保証を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授 業 目 標 : 債権総則の基本的な知識を習得し、ならびに債権の効力、人的担保とは何かについて説明できるようになること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )				事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )			授 業 形 態	
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する				事前： 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分	
2	債権法の概要 債権法の全体像を解説し、債権法とは何かを理解する				事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
3	債権総論(1) 債権の発生原因・内容による分類、種類債権と「特定」の問題を解説し、債権についての理解を深める				事前：債権と請求権について調べる。 事後：種類債権と「特定」についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
4	債権総論(2) 債権の目的(給付内容)の法的问题を解説し、債権についての理解を深める				事前：債権の「目的」の要件について調べる。 事後：債権の「目的」の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
5	債権の効力の概要を解説し、債権についての理解を深める				事前：債権に含まれる力について調べる。 事後：債権の効力と概要についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
6	債務不履行(1) 債務不履行とは何かを解説し、債務不履行に対する債権の効力を理解する				事前：債務不履行の種類について調べる。 事後：履行の強制についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
7	債務不履行(2) 債務不履行と損害賠償、追完について解説する				事前：債務不履行における損害賠償について調べる。 事後：損害賠償の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
8	人的担保(1) 人的担保としての保証の概要を解説し、人的担保とは何かを理解する				事前：人的担保について調べる。 事後：現代における保証の種類についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
9	人的担保(2) 債権者と保証人の関係を中心に取り上げ、その法的関係について理解する				事前：保証契約について調べる。 事後：保証契約の成立における要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
10	人的担保(3) 保証債務と主たる債務の関係について付従性を中心に取り上げ、解説する				事前：付従性とは何かを調べる。 事後：付従性についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
11	人的担保(4) 保証人と主たる債務者との関係について随伴性・補充性の法的論点について理解する				事前：随伴性・補充性について調べる。 事後：随伴性・補充性についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
12	人的担保(5) 保証人と主たる債務者の関係について、求償権・通知義務などを中心に解説する				事前：求償権とは何かを調べる。 事後：求償権についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
13	人的担保(6) 個人保証の規律 保証人保護の法的諸問題を解説する				事前：保証人保護の規律について調べる。 事後：保証人保護についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
14	人的担保(7) 保証の特殊形態について解説し、人的担保の理解を深める				事前：連帯保証・共同保証・根保証について調べる。 事後：保証の特殊形態についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
15	多数当事者間の債権債務関係を解説する				事前：分割/不可分/連帯の各々の債権・債務を調べる。 事後：分割/不可分/連帯の各々の債権・債務をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
教 本 : とくになし(資料を配布します)。					参 考 文 献 : 授業中に適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 小テスト・レポート等(30%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学 (Psychology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	田村 修一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： はじめて心理学を学ぼうとする学生を対象に「科学としての心理学」の入門的な位置づけで授業を行う。そのため、一部の特定領域の心理学についてのみ深く掘り下げて学ぶのではなく、広い領域にわたる心理学に関する基本的な理論や知見について広く学ぶ授業としたい。授業は講義中心であるが、テーマによっては演習やグループワークも実施する。受講後に興味が高まり、さらに各自で深く心理学を学んでいただければ幸いである。									
授業目標： 1 心理学の基本的な理論と知見について理解できる。 2 心理学を学んだことで、心理学的な見方や考え方を今後の日常生活や自己理解・他者理解にいかそうとする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 心理学とは、どのような学問なのか？					事前：シラバスに目を通す 事後：授業の振り返り		講義90分	
2	心理学の主な理論と歴史① 精神分析理論とその後					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義90分	
3	心理学の主な理論と歴史② 行動主義心理学とその後					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義90分	
4	心理学の主な理論と歴史③ 人間性心理学とその後					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義90分	
5	知覚と認知の心理学① 知覚：視覚の不思議を体験する！					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義90分	
6	知覚と認知の心理学② 記憶：記憶のメカニズムを知る！					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義60分 【演習30分】	
7	行動と学習の心理学① 条件づけと観察学習：私たちは、何をどのように学ぶのか？					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義90分	
8	行動と学習の心理学② 動機づけ：やる気が出るメカニズムを知る！					事前：なし 事後：心理学実験の実施		講義90分	
9	社会や集団の心理学① 印象形成、対人認知：他者をどのように認識しているか？					事前：なし 事後：心理学実験の実施		講義75分 【演習15分】	
10	社会や集団の心理学② 説得、同調行動、服従：集団では行動が変わることがある！					事前：なし 事後：心理学実験の実施		講義90分	
11	成長と発達心理学① アタッチメント（愛着）：幼少期の親子関係の重要性！					事前：なし 事後：実験レポートの作成		講義90分	
12	成長と発達心理学② 生涯発達の中の青年期の意味：青年期をどう生きるか？					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義75分 【演習15分】	
13	人格と性格の心理学 エゴグラムと交流分析：自分とはどんな性格なのか？					事前：なし 事後：授業の振り返り		講義75分 【演習15分】	
14	臨床心理学① ストレスと不安：私たちは、なぜ不安・不快になるのか？					事前：なし 事後：定期考査に向けて復習		講義90分	
15	臨床心理学② うつ病：メンタルヘルスが壊れる理由を知る！					事前：なし 事後：定期考査に向けて復習		講義90分	
教本： ビジュアル図解 心理学 植木理恵 中経出版(株式会社 KADOKAWA) 2013年					参考文献： 授業中に紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（①中間心理学実験レポート20%、②授業の振り返りレポート30%）計50%と定期試験50%の総合評価。									
学生へのアドバイス： 心理学は、高校まで学ぶ機会が無かった学問だと思いますが、大変面白く日常生活に役立つ学問です。是非、一緒に楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学 (Psychology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>心理学概論 I では主に個人の行動の発生の仕組みを考え、人がある行動を起こす際にどのような心の働きが生じているのか、という点を中心に学びを進める。授業内容としては、感覚に始まり、錯視を伴う知覚、また我々が見ている世界を意味づける際に必要となる記憶の働きを認知心理学の視点から考える。加えて性格・パーソナリティや動機づけ、及びリーダーシップなど、人間理解に必要な基礎的な心理学的知識を学び、理解する。</p> <p>授業目標：</p> <p>主に教職を目指す履修生が児童・生徒やその保護者への人間理解を深めると共に、教育現場において適切に対処することが出来ることを本授業の到達目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。				事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、 ディスカッション 20分		
2	現代心理学の誕生から現在までの発達・変遷の歴史を通じ、心理学の全体像を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
3	履修生が興味を持つ「性格やパーソナリティ」を取り上げ、それらの内容を理解すると共に、自己評価法と他者評価法を学び、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、実習 30分、 PBL 20分		
4	物理的な世界と我々が見ている世界との間に生じる差異について、認知心理学の視点から学び、大脳で行われている内部情報処理過程の働きと行動との関係を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
5	外界から得られる様々な刺激と、これを受容する感覚器の働きを学び、感覚情報の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
6	錯視図形や多義図形を通じ、知覚体制の意味を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
7	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、知覚の働きを理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
8	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30分、実験 40分、 PBL 20分		
9	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組み等を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
10	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
11	リーダーシップに係る知見を概観すると共に、リーダーシップと生産性との関係を始めて数量的に明らかにしたレヴィンらの研究成果を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
12	リーダーシップに関する代表的な学説である PM 理論とマネジリアルグリッド理論の主張する内容を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、安全管理対策の重要性を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分		
15	まとめ・全体を振り返る				事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分		

<p>教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーとリスク・パーセプション」、企業開発センター、¥3,000</p>	<p>参考文献：</p>
<p>成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。</p>	
<p>学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。</p>	
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>	

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 (Psychology)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
「自分は何者か」という問いについてある程度明確な信念を持つことは、青年期の発達課題です。この課題を達成するためには、「自分」を客観的にとらえることが必要ですが、これは意外と難しいものです。そこで本授業では、自分を客観的にみるための手がかりを、心理学の切り口から提供します。授業では、心理テストにより「こころ」のある側面を数値化したものを用いたり、自分の考えを言語化したりすることにより、自分のユニークさを発見します。授業終盤では希望者を募り、受講生に授業を担当していただく会を何回か設けます（授業担当者には加点有り）。皆さんふるって手を挙げてください。									
授 業 目 標 :									
本授業で提供する手がかりを用い、「自分」のいくつかの側面について客観的に見ていく中で、「自分らしさ」を見出し、かけがえのない自分の人生をどのように歩んでいくのかを考えていく時間を持つことを目標とします。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスを読む 事後：自分について考える			講義・演習	
2	友人関係				事前：友人関係について考える 事後：自分について考える			講義・演習	
3	親との関係				事前：親との関係について考える 事後：自分について考える			講義・演習	
4	恋愛関係				事前：恋愛関係について考える 事後：自分について考える			講義・演習	
5	アタッチメント				事前：対人関係について考える 事後：自分について考える			講義・演習	
6	考え方のくせ				事前：考え方のくせについて考える 事後：自分について考える			講義・演習	
7	アサーション：適切な自己主張				事前：自己主張について考える 事後：自分について考える			講義・演習	
8	様々なコミュニケーション				事前：コミュニケーションについて考える 事後：自分について考える			講義・演習	
9	リフレーミング：多角的な視点				事前：自分の視点について考える 事後：自分について考える			講義・演習	
10	他者から受容されるとき・拒絶されるとき				事前：他者からの受容について考える 事後：自分について考える			講義・演習	
11	組織の中で働く				事前：キャリアプランについて考える 事後：自分について考える			講義・演習	
12	自分を守っているのは？：防衛機制				事前：防衛機制について調べる 事後：自分について考える			講義・演習	
13	私を見せる：自己呈示				事前：自己呈示について調べる 事後：自分について考える			講義・演習	
14	おしゃれからの自己理解				事前：おしゃれについて考える 事後：自分について考える			講義・演習	
15	まとめ				事前：これまで学んだことを振り返る 事後：自分について総合的に考える			講義・演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
遠藤健治 対人関係を通しての自己理解ワークブック ひとのこころとふれあう私 培風館									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (50%)、レポート (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
この授業の時間を、日々忙しく前に進んでいる皆さんが立ち止まり、自分について考える時間に使ってください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学概論 I (General Psychology I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 心理学概論 I では主に個人の行動の発生の仕組みを考え、人がある行動を起こす際にどのような心の働きが生じているのか、という点を中心に学びを進める。授業内容としては、感覚に始まり、錯視を伴う知覚、また我々が見ている世界を意味づける際に必要となる記憶の働きを認知心理学の視点から考える。加えて性格・パーソナリティや動機づけ、及びリーダーシップなど、人間理解に必要な基礎的な心理学的知識を学び、理解する。									
授業目標： 主に教職を目指す履修生が児童・生徒やその保護者への人間理解を深めると共に、教育現場において適切に対処することが出来ることを本授業の到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。				事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認			講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	現代心理学の誕生から現在までの発達・変遷の歴史を通じ、心理学の全体像を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
3	履修生が興味を持つ「性格やパーソナリティ」を取り上げ、それらの内容を理解すると共に、自己評価法と他者評価法を学び、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 40分、実習 30分、 PBL 20分	
4	物理的な世界と我々が見ている世界との間に生じる差異について、認知心理学の視点から学び、大脳で行われている内部情報処理過程の働きと行動との関係を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
5	外界から得られる様々な刺激と、これを受容する感覚器の働きを学び、感覚情報の意味を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
6	錯視図形や多義図形を通じ、知覚体制の意味を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
7	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、知覚の働きを理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
8	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 30分、実験 40分、 PBL 20分	
9	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組み等を学び理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
10	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
11	リーダーシップに係る知見を概観すると共に、リーダーシップと生産性との関係を始めて数量的に明らかにしたレヴィンらの研究成果を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
12	リーダーシップに関する代表的な学説である PM 理論とマネジリアルグリッド理論の主張する内容を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、安全管理対策の重要性を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。				事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。			講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る				事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する			講義 70分、 ディスカッション 20分	

<p>教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーとリスク・パーセプション」企業開発センター ￥3,000</p>	<p>参考文献：</p>
<p>成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。</p>	
<p>学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。</p>	
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>	

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 基 礎 A (Introduction to Psychology A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	牧 裕 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
ドイツのライプチヒ大学に心理学研究室を設立した W.M. ヴントにより 1879 年から心理学の歴史が始まる。時に名探偵コナン君が「真実は一つ」という。「生きる感覚」は多様だ。心理学の先人達は様々な魅力ある枠組みを呈示だが、その探索は尽きることはない。本講義では紀元前からの哲学の歴史には遠く届かないものの、科学という知による心理学からの人間探求の枠組みを概観しよう。									
授 業 目 標 :									
1. 心理学とは何か、心理学の目的、心のモデル、研究方法について理解する。 2. 心理学の基礎知識及び実践分野に加えて他職種連携の意義を学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 ・ 内 容 に 関 し た ガ イ ダ ン ス ー 心 理 学 の 様 々 な 三 角 形 ① (生 きて る 生 きて く)ー					事 前 : シ ラ バ ス の 精 査 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
2	心 理 学 の 様 々 な 三 角 形 ② (認 知 - 行 動 - 感 情)					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
3	心 理 学 の 様 々 な 三 角 形 ③ (学 習 心 理 学 - 認 知 心 理 学 - ゲ シ ュ タ ル ト 心 理 学 -)					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
4	心 理 学 の 様 々 な 三 角 形 ④ (行 動 主 義 - 精 神 分 析 - 人 間 性 心 理 学)					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
5	心 理 学 の 様 々 な 三 角 形 ⑤ (今 こ こ で - 近 い 過 去 - 遠 い 過 去)					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
6	カ ウ ン セ リ ン グ だ け じ ゃ な い 心 理 学					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
7	感 覚 ・ 知 覚 の 仕 組 み					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
8	学 習 の 仕 組 み					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
9	認 知 と は 何 か					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
10	発 達 心 理 学 の 基 礎					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
11	教 育 心 理 学 の 基 礎					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
12	臨 床 心 理 学 の 基 礎					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
13	障 害 心 理 学 の 基 礎					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
14	ダ イ バ ー シ テ ィ 時 代 の 心 理 学 - ジ ェ ン ダ ー、ASD 等 -					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
15	心 理 学 基 礎 A で 開 設 し た 内 容 の 確 認 と 振 り 返 り					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 60 分、小 レ ポ ー ト ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 に て 適 宜 配 布 す る。					授 業 に て 適 宜 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 授 業 参 加 状 況 等 ・ レ ポ ー ト (30%)、期 末 テ ス ト (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 本 授 業 は、心 の 科 学 と し て の 心 理 学 を 含 め 日 々 進 化 し て い る 魂 と し て の 実 践 心 理 学 に つ い て 論 じ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学基礎B (Introduction to Psychology B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牧 裕夫								
履 修 条 件	前提科目	心理学基礎Aを履修していること							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>生物-心理-社会モデルはEngel. G. I. が1970年代に提唱した。現代心理学は、医学・教育・福祉・産業・司法などの5領域を中心に相談室に籠った心理学でなく、アリストテレスの時代から蓄積された生きる知見をどのようにマルチステージな今日の生活者を目指すか、対人支援に活かすか、カウンセリングだけじゃない心理学を共有したい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>多職種連携を求める公認心理師時代、その知見とノウハウにはカウンセラーだけじゃない心理学として企業活動をはじめ、様々な人間関係でも共通しているテーマとして展開したい。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	21世紀からの心理学（科学とどう折り合うか）				事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
2	自然災害と心の「ハーディネス」から「レジリエンス」へ				事前：自然災害で心を支える 事後：「レジリエンス」発想			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
3	自然災害でのPTSDとASD				事前：幸福感（well-being）体験は何か 事後：「ASD」どう実現するのか			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
4	危機理論（学校臨床事例から）				事前：「危機」という漢字の意味 事後：「危機理論」からの地域援助の展開			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
5	危機理論から展開（G.Caplanの実践理論）				事前：個別面接との違い 事後：コンサルテーションでの支援			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
6	応用行動分析による就労支援の実際				事前：「クラウド」からの連想されるもの 事後：クラウドを活用した企業の試み			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
7	応用行動分析とヒューリスティック過程				事前：日常での計画と実践体験 事後：計画性をどう実践で活かすのか			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
8	「見立て」としての多職種連携時代の「ケースフォーミュレーション」				事前：目的どおりに進んだ体験の報告 事後：偶然を活かす為に必要なこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
9	「見立て」をめぐる生物-心理-社会モデル				事前：改善してから実践への疑問 事後：スタッフ同士の立ち話の意義			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
10	ケース検討の実際				事前：福祉のお世話になるテーマは？ 事後：心理が活躍する為に何が必要か			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
11	多様性時代の地域理解（成長と発達）				事前：ライフサイクル論の振り返り 事後：幼少期での体験と今日			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
12	多様性時代の地域理解（家族関係）				事前：自立の中の家族関係 事後：家族システム論からの家族理解			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
13	多様性時代の地域理解（産業領域）				事前：将来性のある会社とは？ 事後：職場での自己実現の在り方			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
14	地域を活かす心理学				事前：地域で自分らしくいられる場所？ 事後：心理学から活躍できる場面は？			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
15	この時代「君たちはどう生きるのか」…				事前：自身を受け止めるとは？ 事後：本授業から気づいたこと			講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
教本： 授業で随時配布する。					参考文献： 授業で随時配布する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する          授業参加状況等・レポート等(30%)、期末テスト(70%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：          本授業は、科学としての心理学を含め日々進化している実践心理学について論じる。そこで、生活等である自分のエピソード体験と関連させての理解を各位に求めたい。</p>									
<p>オフィスアワー：          初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	心理学研究法 (Approaches to Psychology)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	水本 深喜									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 本講義では、心理学の研究法、心理学の研究論文の検索方法、論文の読み方、論文のまとめ方を学ぶ。										
授業目標： 心理学研究の論文を検索し、読んで理解し、概要を記述することができるようになる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習			講義		
2	心理学における研究とは、論文検索の方法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義 50分、演習 40分		
3	様々な心理学研究法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義		
4	心理学論文の構成				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の構成を確認する			講義 50分、演習 40分		
5	心理学論文の読み方				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の内容をまとめる			講義 50分、演習 40分		
6	心理学論文内容の理解				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文を読み込む			講義 20分、グループワーク 70分		
7	心理学論文のまとめ①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分		
8	心理学論文のまとめ②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分		
9	心理学論文のまとめ③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表準備			講義 20分、グループワーク 70分		
10	発表会①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分		
11	発表会②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分		
12	発表会③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分		
13	発表会④				事前：論文検索 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分		
14	論文形成での記述方法				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文のまとめレポートを作成する			発表 20分、討論 30分、講義 40分		
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義		
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に、都度紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、レポートまたはテスト等（50%）で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 授業には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。										
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	心理学実験演習 (Seminar on Psychology Experiment)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒木 光								
履 修 条 件	前提科目	心理学実験法、心理統計法の単位を修得していること							
	その他	なし							
授業概要： 心理学実験を実施・分析・報告する力を養うことを目的とする。統計法・実験法を履修済みの学生が無理なく実践的な経験を積めるよう、ストループ効果、SD法によるイメージ測定、系列位置効果の3つの実験を中心に進める。									
授業目標： 1. 心理学の実験と調査の手順を理解し、正確に実施できる。 2. 実験と調査のデータを収集・整理し、基本的な統計手法を用いて分析できる。 3. 分析結果を基に、心理学的な意味を論理的に解釈し、考察できる。 4. 実験の目的、方法、結果、考察を、決められた書式や形式に沿って整理し、レポートを作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業全体の説明					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	ストループ効果：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	ストループ効果：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分	
4	ストループ効果：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
5	ストループ効果：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
6	SD法によるイメージ測定：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	SD法によるイメージ測定：質問紙作成					事前：実験方法の確認 事後：データの収集		実習 90分	
8	SD法によるイメージ測定：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
9	SD法によるイメージ測定：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
10	系列位置効果：実験概要の説明					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	系列位置効果：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データの収集		実習 90分	
12	系列位置効果：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
13	系列位置効果：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
14	総合演習（実験結果の考察ワークショップ）					事前：13回までの復習 事後：考察をまとめる		実習 90分	
15	総合演習（グループ要約レポート作成とまとめ）					事前：要約作成の準備 事後：授業内容の総復習		実習 90分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： 「よくわかる心理学実験実習 [第2版]」 ミネルヴァ書房 ¥2,500 「心理学基礎実験を学ぶ〈第2版〉」 北樹出版 ¥2,400				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業では、表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコンを必ず持参するようにしてください。詳細は、初回授業でお伝えします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 実 験 法 (Experimental Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 統 計 法 を 履 修 し て い る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
心理学実験の基礎を体験し、知覚・潜在態度・顕在態度を実証的に学ぶ。ミュラー＝リヤー錯視、IAT、質問紙調査を通して、方法・分析・考察までを体験する。グループワークとディスカッションを交え、心理学実験の理解を深める。									
授 業 目 標 :									
1. 心理学の実験と調査の手順を理解し、正確に実施できる。									
2. 実験と調査のデータを収集・整理し、基本的な統計手法を用いて分析できる。									
3. 分析結果を基に、心理学的な意味を論理的に解釈し、考察できる。									
4. 実験の目的、方法、結果、考察を、決められた書式や形式に沿って整理し、レポートを作成できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：授業全体の説明					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	ミュラー＝リヤー錯視：錯視とは何か・実験概要の説明・準備					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 60分 実習 30分	
3	ミュラー＝リヤー錯視：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分	
4	ミュラー＝リヤー錯視：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
5	ミュラー＝リヤー錯視：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
6	IAT (潜在連合テスト)：実験概要の説明・準備					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	IAT (潜在連合テスト)：実験実施・データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データ集計		実習 90分	
8	IAT (潜在連合テスト)：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
9	IAT (潜在連合テスト)：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
10	質問紙調査：質問紙調査とは何か					事前：資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	質問紙調査：質問紙作成					事前：資料を読む 事後：データの収集		講義 30分 実習 60分	
12	質問紙調査：データ分析					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
13	質問紙調査：実験レポートの作成					事前：レポート作成の予習 事後：レポートの作成		実習 90分	
14	総合演習① (3つの実験結果をまとめる)					事前：13回までの復習 事後：ポスターの作成		実習 90分	
15	総合演習② (3つの実験結果をポスター発表する)					事前：ポスター発表の準備 事後：授業内容の総復習		実習 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使用しない。適宜、参考資料を配布。					「よくわかる心理学実験実習 [第2版]」 ミネルヴァ書房 ¥2,500 「心理学基礎実験を学ぶ (第2版)」 北樹出版 ¥2,400				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (60%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
この科目は、実験演習の基礎科目です。「心理学実験演習」、「社会心理学実験演習」を受講予定の学生は必ず履修してください。本授業では、表計算ソフト (Microsoft Excel) がインストールされたパソコンを必ず持参するようにしてください。詳細は、初回授業でお伝えします。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理統計法 (Psychometrics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒木 光								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 心理学で必要な統計手法を実践的に学ぶ。前半は電卓で基礎統計を理解し、後半はPCでt検定・カイ二乗検定・回帰分析を実践する。統計の使い分けと結果の解釈力を養う。									
授業目標： 1. 心理学でなぜ統計が必要なかを説明できるようになる。 2. 心理統計に関する基礎的な知識を説明できるようになる。 3. 統計手法を目的に応じて選べるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	心理統計とは？					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 演習30分	
2	代表値（平均・中央値・最頻値）					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 演習30分	
3	散布度（分散・標準偏差）					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 演習30分	
4	記述統計法					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 演習30分	
5	標準化（Z得点）					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 演習30分	
6	相関分析（散布図と相関係数）					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 演習30分	
7	統計的仮説検定の基礎					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 演習30分	
8	Excelの基本操作					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 演習30分	
9	記述統計をPCで可視化					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 演習30分	
10	対応のあるt検定（同じ集団の前後比較）					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 演習30分	
11	対応のないt検定（独立した2群の比較）					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 演習30分	
12	カイ二乗検定（カテゴリーデータの比較）					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 演習30分	
13	回帰分析（基礎）					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 演習30分	
14	総復習と検定の使い分け					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 演習30分	
15	まとめ					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 演習30分	
教本： 「統計嫌いのための心理統計の本」 創元社 ￥2,200					参考文献： 授業中に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 統計は「慣れ」が大切です。演習を重ねて手を動かし、データを読む力を身につけましょう。難しく感じても、基礎を押さえれば必ず理解が深まります。わからないことは積極的に質問し、仲間と学び合う姿勢を大切にしてください。授業では、電卓（2回目以降）や表計算ソフト（Microsoft Excel）がインストールされたパソコン（8回目以降）を使った計算や分析を行うので用意してください。詳細は初回授業でお伝えします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	数 学 (Mathematics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この授業では、数学の歴史的背景を踏まえ、さまざまな数式の作り方、また、数式と図を関連づけたグラフ（座標）の書き方について学び、解の導き方を身に付けることによって、数学的思考力の向上を目指します。さらに、線形代数におけるベクトルと行列について学び、大学数学の基礎を身に付けます。									
授 業 目 標 :									
①数列の一般項を数式で表すことができ、数列の和を求めることができる。									
②数式と座標の関係を理解し、さまざまな関数のグラフを書くことができる。									
③微分とは何か理解し、微分係数と導関数の計算ができる。									
④ベクトル及び行列とは何か理解し、それらを用いた計算ができる。									
⑤偏微分とは何か理解し、基礎的な計算ができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イントロダクション「数学」 授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 数と数学についての学び方を学ぶ。					事前：シラバスを読む 事後：ミニツペーパー		アイスブレイク (15分) 講義 (75分)	
2	数列と素数について学ぶ。					事前：数学ノートを準備する 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) グループワーク (30分)	
3	Σと数列の和について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
4	デカルトと関数のグラフについて学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
5	関数のグラフと方程式の解、不等式の解について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
6	ニュートンと微分法と積分法(1) 微分法について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
7	ニュートンと微分法と積分法(2) 積分法について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 小テスト (30分)	
8	ピタゴラスと三角関数について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
9	オイラーと指数・対数について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
10	線形代数学(1) ベクトルについて学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
11	線形代数学(2) ベクトルの内積・外積について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
12	線形代数学(3) 行列について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
13	線形代数学(4) 逆行列と連立一次方程式について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：ミニツペーパー		講義 (60分) 演習 (30分)	
14	リーマンと複素数について学ぶ。					事前：出題する問いを解く 事後：学びのマップ作成		講義 (60分) 演習 (30分)	
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。					事前：ポートフォリオの整理 事後：学びの振り返りを行う		講義 (40分) 試験 (50分)	
教 本 :									
授業内で指示する。			参 考 文 献 :						
奈 佐 原 顕 郎 (2019) 「ラ イ ブ 講 義 大 学 1 年 生 の た め の 数 学 入 門」 講 談 社 ISBN 978-4-06-514675-0 その他、必要に応じて授業内で紹介する。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ (ミ ニ ツ ペ ー パ ー、数 学 ノ ー ト、振 り 返 り 等) : 60%、小 テ ス ト : 10%、試 験 : 30% で 総 合 評 価 す る。 ※学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ は、ル ー プ リ ッ ク (評 価 基 準) に よ る 自 己 評 価 を 含 む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
数 学 ノ ー ト に つ い て、初 回 講 義 日 に 説 明 す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	スポーツ実技 A (Physical Exercises A)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	白井 大史									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること								
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。										
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○						◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
2	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
3	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
4	卓球Ⅲ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
5	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
6	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
7	ソフトボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
8	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
9	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
10	テニスⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
11	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
12	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
13	バドミントンⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
14	バドミントンⅣ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
教本： 特になし					参考文献： 特になし					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	スポーツ実技 A (Physical Exercises A)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	小林 夕紀恵									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること								
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。										
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○						◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
2	バドミントン I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
3	バドミントン II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
4	テニス I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
5	テニス II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
6	レクリエーションスポーツ I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
7	レクリエーションスポーツ II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
8	卓球 I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
9	卓球 II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
10	ソフトボール I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
11	ソフトボール II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
12	バドミントン III					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
13	テニス III					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
14	卓球 III					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
教本： 特になし					参考文献： 特になし					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	スポーツ実技B (Physical Exercises B)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	白井 大史								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バスケットボール、バレーボール、サッカー、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	フットサルⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	フットサルⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	サッカーⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	サッカーⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	サッカーⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	バスケットボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	バスケットボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	バスケットボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	バスケットボールⅣ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	バレーボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バレーボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	バレーボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	バレーボールⅣ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
教本： 特になし					参考文献： 特になし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	スポーツ実技B (Physical Exercises B)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	小林 夕紀恵									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること								
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バレーボール、バスケットボール、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。										
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○						◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
2	レクリエーションスポーツ I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
3	卓球					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
4	バレーボール I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
5	バレーボール II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
6	バレーボール III					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
7	フットサル I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
8	フットサル II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
9	フットサル III					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
10	バスケットボール I					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
11	バスケットボール II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
12	バスケットボール III					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
13	レクリエーションスポーツ II					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
14	レクリエーションスポーツ III					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分		
教本： 特になし					参考文献： 特になし					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半年間預けることができる室内シューズを用意すること。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	スポーツ論 (Health and Sports Education)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	水原 佐和子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ・個、社会の両視点から、人間が健康に生きるうえでの身体活動や運動が必要となる背景を学び、理解する。 ・生活習慣病等予防のための運動処方について、基礎知識を学ぶ。									
授業目標： 自らの健康を守り生きていくために、運動習慣や身体活動がどのように関わるのか理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	現代社会と健康：人口動態、近現代の疾病構造の変遷					事前：なし 事後：なし		講義	
3	健康づくり対策の流れ：健康日本21					事前：なし 事後：なし		講義	
4	健康日本21における運動の取り扱い① 成人・高齢者					事前：なし 事後：なし		講義	
5	健康日本21における運動の取り扱い② 児童・生徒					事前：なし 事後：なし		講義	
6	体力とは何か① 身体組成					事前：なし 事後：なし		講義	
7	体力とは何か② 持久力					事前：なし 事後：なし		講義	
8	体力とは何か③ 筋力・柔軟性					事前：なし 事後：なし		講義	
9	ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル					事前：なし 事後：なし		講義	
10	ロコモティブシンドローム予防のための運動案の検討					事前：なし 事後：各自復習		演習	
11	運動案の実技発表					事前：事前準備 事後：なし		演習	
12	実技発表振り返り・世代別の運動課題について					事前：なし 事後：なし		演習	
13	休養・栄養					事前：なし 事後：なし		講義	
14	ストレスマネジメント・救急法					事前：なし 事後：なし		講義	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： なし ※適宜配布					参考文献： 厚生労働省『健康日本21』 <a href="https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/s0.html">https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/s0.html</a>				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 適度な運動習慣を心掛けましょう。									
オフィスアワー： 授業時にお伝えします。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	性 格 心 理 学 (Personality Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	牧 裕 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
私達が体験している「こころ」の中で様々な感情がうごめいている。そこに個人差を求める性格心理学がある。個々がどのような枠組みをもって自身の「こころ」に思いをよせるか、性格心理学ではコナン君のように「答えは一つ」ではなく様々な可能性を学ぶ。									
授 業 目 標 :									
1. 自身や他者に思いを寄せる様々な可能性に関心をもてること 2. 「答えが一つ」でないことから様々な可能性に開かれている体験となることを期待したい。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (人間ならではの探究、「性格」と「人格」の差異、それぞれの方向性) 生まれつき or 生後の体験から?					事前: シラバスの精査 事後: シラバスの確認		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
2	「魂」から「心」への展開 (S.フロイトの展開と心の成り立ち)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
3	今日の性格探究への端緒 (20世紀初頭のウィーンでの後の巨匠たち S.フロイトから離反した A.アドラーと C.G.ユング)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
4	深層心理 (無意識) をめぐる三巨匠の対立、氷山のようなゴツゴツな心のカタチに批判からユング、アドラーの展開。					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
5	アート作品にみる C.G.ユングの集合的無意識の展開 (ジブリ作品を彷彿させる元型論からの性格)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
6	C.G.ユングのタイプ論、ライフサイクル論の展開					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
7	A.アドラーの目的論、器官劣等説 (そもそもネガティブな性格でもどう生きるか、乗り越えるかが自己実現と関わる)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
8	性格の分類への心理学理論 (基本的な枠組み特性論・類型論)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
9	性格心理学の展開 (古典的な理論の凄み)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
10	特性論・類型論それぞれから発展した性格検査					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
11	性格理論の今日 (最新のパーソナリティ理論最近の心理学研究動向)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
12	性格理論の今日 (ピック・ファイブ、クロニンジャーの7因子)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
13	性格検査の体験 (質問紙法・エゴグラム等)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
14	性格検査の体験 (投影法・カラージュ作品等)					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
15	まとめ: なぜか蚊に刺されやすい O 型、血液型は性格に関連するのか・ユングタイプ論の MBTI が求めるものは?					事前: 教本の予習 事後: ノートの整理・復習		講義 60分、小レポート・ディスカッション 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授業で随時配布する。					授業で随時配布する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 レ ポ ー ト 等 (20%)、学 期 末 テ ス ト (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 本 授 業 で は、特 に 性 格 の 成 り 立 ち と し て 発 達 的、力 動 的 な 視 座 を 重 視 し た。自 己 理 解 に も 資 す る と 期 待 し て い る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。ただ、ともにうまくやっていくための「政治」は時として我々の生活に暴力的な形で介入することもあります。一体、政治とはなんなのか、これを問い続けているのが「政治学」です。この授業では、政治学の基礎的な知識や考え方を習得することを通じて、自分の周りの「政治」を改めて認識・理解する視点を提供します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. 政治の「当事者」としての冷静かつ批判的な態度を養う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要とともに、「政治」と向き合うこととはどのようなことかをお話します。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	「政治」とは何か：「政治」、「権力」などと共に政治学はどのような学問かを説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	国家：国家の成り立ちと類型など基本知識を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	政治体制：政治体制において、デモクラシーの成立と展開の背景をお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	政治制度と政治過程：政治過程とは何か、政治を見渡す際の視点を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	公共政策：政策が作られる過程がどのようなものであり、どのような視点から分析されてきたかを学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テスト復習		テスト、 フィードバック	
8	議会：政治過程での議会と行政府との関係を中心にお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	政党：政党とは何か、その役割、類型などとともに政党と他の集団との違いを整理します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	利益団体：政治過程における利益団体の概要と意義を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	選挙制度：政治参加の形はどのようなものか、その1つである「選挙」の概要をお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	投票：人々は何を基準にして投票するのか、投票行動の代表的なモデルなどを紹介します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	マスメディア：マスメディアの役割について主なモデルを説明しながら、人々の意識にどのように影響を及ぼすか考えます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	国際関係：国際関係のなかでどのように「秩序」の維持が模索されてきたか、「国際関係」論の展開をお話しし、理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
<p>教本：</p> <p>特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。</p>					<p>参考文献：</p> <p>久米、川出、古城、田中、真渥著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年） ¥3,400を推薦します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>近年の新型コロナ感染拡大によって、「政治」は我々の生活に大きな影響を及ぼしました。この授業は政治の身近さを学ぶ政治学の導入編ですので、興味があればぜひ受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	政 治 学 (Politics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
新聞、テレビ、インターネットなどにあるニュース素材を使いながら、政治、また政治学とは何かという問いにアプローチしていきます。前半は、民主主義における「政治過程」というものをイメージしながら、政治を理解することを目指します。後半は、日本の大学で学ぶ政治学の主要分野を概略していきます。									
授 業 目 標 :									
1. 政治学に親しみ、身近な政治に関心を持つ。 2. 具体的な事例を通じ、政治学の骨格を身につける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：講義の概要と身近な問題に隠れている政治と政治過程というものについてわかりやすくお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義と対話	
2	民主主義と政治過程とは：政治過程とは何か、民主主義の中での意義を概説します。民主主義の政治過程での民意の実現に関して、幾つかの事例を使いながら説明していきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	市民革命と民主主義：民主的制度の歴史と土台にある伝統的な理論について、基本事項を学習していきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	民主主義と現代の政治体制：民主主義とは何か、そして現代の政治体制のタイプを整理します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	権力分立と行政と立法：権力分立の形と背景を学び、行政と立法の意味と関係について概略します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	選挙：民主主義の要である選挙の意義と仕組みについて学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	ミニ・テスト①：前半の総復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストとフィードバック、対話	
8	政党：政治過程の主要な担い手である政党について基礎知識を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	利益団体：政治過程の主要な担い手である利益団体について基礎知識を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	大衆社会、ネット社会と民主主義：大衆社会での民主主義の姿とネット時代でのその変化について学んでいきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	大衆社会と選挙：大衆社会での選挙行動について、その理論の系譜を追いながら考えていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	国家と権力：国内政治の基礎にある「国家」について、伝統的な政治学での議論を紹介しします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	民主主義と寛容さ：自由な民主主義にとって不可欠な寛容さの問題を、政治学の歴史を背景に学んでいきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	ミニ・テスト②：後半の復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストとフィードバック、対話	
15	政治とは何を指すのか：講義のまとめとして、政治の目的と我々の政治参加のあり方を一緒に考えていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 60分 ディスカッション 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎回ハンドアウト(配布資料)を配ります。それに従って講義を進めます。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(10%)、定期試験(40%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
18歳から選挙権が与えられ政治を身近な問題として若い人が学ぶべき時代になっています。どなたにでもわかりやすい入門の講義なので、少しでも関心があれば是非受講してみてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	三枝 昌幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講義では政治とはどのような営みであるかを学習する。最初に政治の基本理念や歴史、具体的な政治制度について解説し、それらの知識を踏まえつつ政治や政治学が直面している具体的な課題を検討していく。									
<b>授業目標：</b> 1. 政治学の基礎知識を習得すること。 2. 現代の政治や政治学が直面している問題について自身の見解を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	政治とは何かについて様々な見解を検討する。政治の意義について検討する。					事前：シラバスの熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
2	権力分立の理念やその具体的な仕組みについて学習する。権力分立の意義や課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
3	国民主権の理念やその具体的な仕組みについて学習する。国民主権の意義や課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
4	明治維新から第二次世界大戦終結までの日本政治史を学習する。戦前の日本政治の課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
5	第二次世界大戦後の日本政治史を学習する。戦後の日本政治の課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
6	国の政治制度のうち立法機関について学習する。立法過程に関する具体的な問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
7	国の政治制度のうち行政機関について学習する。行政過程に関する具体的な問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
8	地方自治の仕組みについて学習する。地方自治に関する具体的な問題を検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
9	世界各国の政治制度について学習する。各国の政治制度の長所と短所について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
10	選挙制度について学習する。現行選挙制度の長所と短所について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
11	政党制度について学習する。現代日本の抱える政党制度の課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
12	世論と政治の関係について学習する。政治の分野でマスメディアが果たすべき役割について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
13	国際政治の仕組みについて学習する。現代の国際政治が直面している課題について検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
14	国際紛争について学習する。これからの政治や政治学が国際紛争にどのように対処すべきか検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
15	社会保障について学習する。これからの政治や政治学が社会保障にどのように対処すべきか検討する。					事前：配布資料の熟読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分、演習 20分	
<b>教本：</b> 使用しない（レジュメを配布する）。					<b>参考文献：</b> 使用しない。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（50%）、試験（50%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 日頃からニュースを確認して政治に関する情報を収集しておくこと。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学概論 I (Introduction to Politics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。ただ、ともにうまくやっていくための「政治」は時として我々の生活に暴力的な形で介入することもあります。一体、政治とはなんなのか、これを問い続けているのが「政治学」です。この授業では、政治学の基礎的な知識や考え方を習得することを通じて、自分の周りの「政治」を改めて認識・理解する視点を提供します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. 政治の「当事者」としての冷静かつ批判的な態度を養う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要とともに、「政治」と向き合うこととはどのようなことかをお話します。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	「政治」とは何か：「政治」、「権力」などと共に政治学はどのような学問かを説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
3	国家：国家の成り立ちと類型など基本知識を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
4	政治体制：政治体制において、デモクラシーの成立と展開の背景をお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
5	政治制度と政治過程：政治過程とは何か、政治を見渡す際の視点を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
6	公共政策：政策が作られる過程がどのようなものであり、どのような視点から分析されてきたかを学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
7	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テスト復習		テスト、フィードバック	
8	議会：政治過程での議会と行政府との関係を中心にお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
9	政党：政党とは何か、その役割、類型などとともに政党と他の集団との違いを整理します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
10	利益団体：政治過程における利益団体の概要と意義を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
11	選挙制度：政治参加の形はどのようなものか、その1つである「選挙」の概要をお話します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
12	投票：人々は何を基準にして投票するのか、投票行動の代表的なモデルなどを紹介します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
13	マスメディア：マスメディアの役割について主なモデルを説明しながら、人々の意識にどのように影響を及ぼすか考えます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
14	国際関係：国際関係のなかでどのように「秩序」の維持が模索されてきたか、「国際関係」論の展開をお話しし、理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60 分 ディスカッション 30 分	
<p>教本：</p> <p>特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。</p>					<p>参考文献：</p> <p>久米、川出、古城、田中、真渥著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年）、¥3,400、を推薦します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>近年の新型コロナ感染拡大によって、「政治」は我々の生活に大きな影響を及ぼしました。この授業は政治の身近さを学ぶ政治学の導入編ですので、興味があればぜひ受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学概論Ⅱ (Introduction to Politics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	末次 俊之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。そして政治を専門とする「国家」が誕生して以来、各国における「政治」は多様な形を見せています。例えば、我が国にも多大な影響を及ぼすアメリカは、日本と同様に「自由民主主義」の政治の在り方を採用している一方で、人々による政治の進め方は日本とかなり異なるものとなっています。そこで、この授業では、現代アメリカ政治について、大統領の政権運営を、大統領を支持するアメリカ有権者の多様な背景を考えることを通じて、アメリカ政治の現状への理解を深める知識、並びに視点を提供します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。  2. アメリカの政治を理解することを通じて、我が国の政治に対する相対的な視点と能動的な態度を養う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要とともに、我々は「アメリカ」をどのように理解しているか、についてお話しします。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	アメリカの政治体制①：アメリカの統治のルールを定める連邦憲法についてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	アメリカの政治体制②：連邦制と厳格な三権分立の役割を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	アメリカの大統領：アメリカの大統領制と、大統領が持つ権限についてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	アメリカの外交・安全保障政策：アメリカ外交政策の伝統と近年の特徴、並びに軍事・安全保障政策についてお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	アメリカの政治思想：政治に大きな影響を及ぼす「保守」と「リベラル」の思想の内容と、その歴史的展開を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テスト復習		テスト、フィードバック	
8	G・W・ブッシュ大統領：ブッシュ大統領の家庭環境、職業経験、政治経歴をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	ブッシュ大統領の政権運営：ブッシュ政権が直面した政治課題と問題点を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	バラク・H・オバマ大統領：オバマ大統領の家庭環境、職業経験、政治経歴を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	オバマ大統領の政権運営：オバマ政権が直面した政治課題と問題点を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	アメリカのファーストレディ：歴代の大統領夫人たちの政治的役割を理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	ドナルド・J・トランプ大統領：トランプ大統領の家庭環境、職業経歴などをお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	トランプ大統領の政権運営：トランプ大統領が直面した政治課題と問題点を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
<p>教本：</p> <p>特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。</p>					<p>参考文献：</p> <p>藤本一美『現代米国政治分析—オバマ政権の課題』（学文社、2013）を挙げさせていただきます。その他の文献は授業で紹介いたします。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>日々のニュースの中でアメリカに関する情報を日にしない日は、ほぼ無いと言えます。そのようなアメリカに関する「情報の氾濫」は、時としてアメリカへの誤解を生むことにも繋がります。そういった誤解を正す知識、視点を身に付けたい学生、またアメリカに興味がある学生は、ぜひ受講してみてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	成 人 ・ 老 年 期 の 心 理 (Psychology of Adults and Elderly)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	荒 木 光								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
成人期から老年期にかけての発達と心理的变化を学ぶ。加齢に伴う認知・運動機能の変化やパーソナリティの発達、人間関係やキャリアの特徴を理解し、老年期の心理的課題についての知識を深める。									
授 業 目 標 :									
1. 成人・老年期における発達課題と心理的变化を理解し、主要な理論や概念を説明できるようになる。									
2. 成人・老年期の多様なライフイベントや社会的関係について、自分の意見を述べられるようになる。									
3. 成人・老年期の心理的課題に対して共感的な視点を持ち、コミュニケーションの在り方を考えられるようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	成人・老年期の心理とは？					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分	
2	成人期の発達課題とアイデンティティ					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分	
3	ライフイベントと心理的適応					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分	
4	中年期の危機（ミッドライフ・クライシス）					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分	
5	親子関係と中年期の心理					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分	
6	仕事とキャリアの心理学					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分	
7	パートナーシップと愛情関係の変化					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分	
8	老年期の発達課題と幸福感					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分	
9	記憶と加齢（認知機能の変化）					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分	
10	老年期の社会的つながりと孤独					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分	
11	ロールモデルとしての高齢者像					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分	
12	喪失とグリーフ（悲嘆）の心理学					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分	
13	健康とメンタルヘルス（成人・老年期のこころと身体）					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分	
14	高齢者とのコミュニケーションのコツ					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分	
15	成人・老年期の心理のまとめ					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使用しない。適宜、参考資料を配布。					「発達心理学15講」 北大路書房 ￥2,200				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
発達や加齢の影響を学ぶだけでなく、支援を必要とする人々の立場に立って考え、実践的な視点を持つとともに、自身の将来を見通す意識を持って授業に参加することを期待します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	青年期の心理 (Psychology of Adolescent Age)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	牧 裕 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> スタジオジブリ作品『ハウルの動く城』その魔法使いハウルが住む城は青年期の姿そのものだ。大砲の攻撃性、大きな口は食欲さ、心への入口は小さい。特に最大の特徴はなんと「動く城」なのだ。映画作品ではなく心理学からその姿を読み取ってゆきたい。									
<b>授業目標：</b> ①米国の心理学者スタンレー・ホールによれば青年期は「疾風怒濤」という。青年期での心理学的な展開に関心を深める。 ②青年期以前とそれ以降のライフステージへの意義へ『君たちはどう生きるか』自身にさらに問う契機となることを期待する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション 導入 『ハウルの動く城』にみる青年期				事前：シラバスの精査 事後：自身と対比し、まとめる			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
2	発達と青年期 (共同注意と共感：M.トマセロの九カ月革命、砂場から社会へ・・・)				事前：幼少期の体験と今に関心をもつ 事後：幼少期での砂場体験との関連			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
3	発達と青年期 (最早期での二者関係：S.フロイト、M.クライン)				事前：幼少期での親との関連 事後：振り返った内容をまとめる			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
4	発達と青年期 (分離・個体化理論：M.マラー、P.プロス)				事前：母と子で公園デビューな体験から 事後：安心・信頼感の所在を確認する			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
5	生涯発達と青年期 (アイデンティティ：E.エリクソン)				事前：自分らしさを気に入っているのか 事後：今後の人生で味わいへの創造			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
6	生涯発達と青年期 (アイデンティティ：レビソソとユング)				事前：社会参加への希望と不安 事後：ユング心理学の影響			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
7	恋愛とセクシャリティ (恋愛、世界の動向と日本)				事前：恋愛、結婚での異性への意識 事後：中・高校体験の自身振り返る			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
8	性と性役割 (ジェンダーとして・性同一性障害)				事前：男らしさ、女性らしさとは 事後：ジェンダーとしての自己理解			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
9	自己を理解する (自己価値の探究・アイデンティティ)				事前：自分らしさをどこに見出す？ 事後：世界と日本の対比から捉える			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
10	自己を理解する (我が国の歴史を踏まえた探索)				事前：産業革命、進化論と今日 事後：「ひきこもり」をどう受け止める			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
11	青年期と仲間関係 (ギャングエイジ➡チャムグループ➡ピアグループへ)				事前：ギャングロウ現象を理解 事後：仲間体験と今の自身の関連			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
12	社会に出て行くということ (青年期の遷延化と人生・100年時代)				事前：人生100年時代の青年期 事後：改めて社会参加の在り方			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
13	社会に出て行くということ (青年期の遷延化と人生・ダイバーシティ時代)				事前：性別・ジェンダーへの理解 事後：多様性としての自身の在り方			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
14	社会に出て行くということ (青年期の遷延化と人生・「出会い」とは・・・)				事前：今に至った「出会い」とは何か 事後：青年期での「出会い」とその未来			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
15	青年期であること (であったこと) への気づき・考えたこと				事前：「生きている、生きてく」に思う 事後：受講者を動かしたアートシーン			講義 60分、小レポート・ ディスカッション 30分	
教本： 授業で随時配布する。					参考文献： 授業で随時配布する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (40%)、期末テスト (40%) で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 『ハウルの動く城』を鑑賞しよう。アートシーンから心理学の繋がりを楽しめる契機となることを期待する。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	生物学 (Biology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	橋詰 二三夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 生物学は、生命現象を対象として異なる生命体に共通する部分と共通しない部分の識別・追求から始まり、発展してきた。内容は分子レベルにまで達しているが、詳細（ミクロ）追求のみでは、全体像（マクロ）を見失う場合もあるので、両者のバランスを保ちつつ認識を培う。なお、授業は板書で行い、必要に応じて資料を配布し、パワーポイントなどで説明する。									
<b>授業目標：</b> 1. 生命現象から、発生、環境応答、生態、進化に至る生物の基本的事項が理解できる。 2. 教養として役立つと思われる生物学的基礎知識を習得できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：生物に関するこれまでの学習履歴の確認					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
2	細胞：核、細胞膜、真核生物、原核生物、微生物などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
3	酵素：タンパク質、基質、温度、pH、補酵素などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
4	呼吸：ミトコンドリア、ATPなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
5	光合成：クロロフィル、明反応、暗反応、光補償点、光飽和点などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
6	遺伝 ①：体細胞分裂、DNA、複製、転写、翻訳などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
7	遺伝 ②：減数分裂、優性の法則、分離の法則、独立の法則、組換え価などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
8	遺伝 ③：突然変異などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
9	発生：胚の発生過程、内胚葉、中胚葉、外胚葉などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
10	恒常性：自律神経、ホルモンなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
11	生体防御：白血球、免疫などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
12	植物：発芽、成長、開花、結実、植物ホルモンなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
13	個体群：生物群集、植生、共生、なわばり、ニッチなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
14	生態系：物質循環、生産者、消費者、分解者、環境などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
15	進化：系統、分類、種、生活環、ドメインなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90分	
<b>教本：</b> 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修 数研出版 ￥1,243					<b>参考文献：</b> なし				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 本年度からの担当のため、状況により変更もありうるが、授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。 授業中の私語、スマートフォン操作は厳禁									
<b>学生へのアドバイス：</b> 範囲は広いものの、難易度は低めに設定。									
<b>オフィスアワー：</b> 講義終了後、講義室ないし講師室で対応									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	相 談 援 助 (Consultation Assistance)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解し、保育士に求められているソーシャルワークとしての相談援助を学ぶ。そして、相談援助の方法と技術を具体的に展開する方法を事例や演習を通して学ぶ。									
授 業 目 標 : 保育士が行う「相談援助」の知識と技術を理解し、習得したうえで実践であることが求められる。この科目を通して相談援助の概要を理解しつつ、「保育士による相談援助」のための知識と技術の獲得を目標としている。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 相談援助の概要を説明する。 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解する。					事前：シラバスの確認をする 事後：相談援助の概要をまとめる		講義 60分、概要のまとめ 30分	
2	相談援助の意義と機能 相談援助が重要とされる根拠や背景について理解する。					事前：相談援助の背景を調べる 事後：社会状況をまとめる		講義 60分、調査 30分	
3	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークとしての相談援助の特徴について理解する					事前：ソーシャルワークの下読み 事後：相談援助の特徴をまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
4	相談援助のための基本技術 厚木市療育相談センターについて事前調査し、療育の基本を学ぶ					事前：療育について予習 事後：質問事項をまとめる		講義 60分、事前調査 30分	
5	厚木市療育相談センターの視察研究 子どもの療育の相談について実際に視察する。					事前：職員への質問の整理 事後：レポートにまとめる		視察研修 90分	
6	療育相談センター内での相談状況や環境の口頭発表 レポートにまとめ発表をする。					事前：研修の意義やまとめ 事後：他の学生の発表を聞く		口頭発表 60分、レポート 30分	
7	相談援助の方法と技術 相談援助の利用者が抱える内容や、援助課題などを理解する					事前：相談援助の技術を予習 事後：援助課題をまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
8	相談援助のための実践アプローチ 相談援助における実用的な実践アプローチを理解する。					事前：援助の態度などを考える 事後：話し合ったことをまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
9	相談援助の演習 事例に基づいて皆で討論し、発表する。					事前：援助者の心構えを考える 事後：他の人の意見をまとめる		講義 30分、事例検討 30分、発表 30分	
10	相談援助の具体的展開 計画、記録、評価の方法や必要な事柄について検討する。					事前：相談者の気持ちを考える 事後：事例のまとめ		講義 30分、事例検討 30分、発表 30分	
11	専門機関との連携 専門機関や専門職等の連携について学ぶ					事前：専門機関の下調べをする 事後：保育士と協働する社会資源		講義 60分、調査 30分	
12	社会資源の活用、調整、開発 様々な社会資源について調べ、発表してみる。					事前：社会資源について考える 事後：口頭発表の反省		講義 30分、検討 30分、発表 30分	
13	虐待の予防と対応に関する事例分析 虐待のケース発見からアウトリーチまでの課程を理解する。					事前：虐待の定義を予習 事後：児童虐待の過課程をまとめる		講義 60分、事例分析 30分	
14	障害のある子どもとその保護者への支援に関する事例分析 事例を通して援助者としての対応を身に付ける。					事前：障害のある子どもを理解 事後：事例のまとめをする		講義 60分、事例検討 30分	
15	ロールプレイ、フィールドワークなどによる事例分析とまとめ 事例を基に援助場面を体験して学びを深める。					事前：今までの事例を見直す 事後：事例をまとめ、振り返る		講義 30分、事例分析 30分、まとめ 30分	
教 本 : 相談援助 保育相談支援 著者：笠師千恵、小林明子 発行所：中山書店 ￥2,500					参 考 文 献 : 保育所保育指針 解説書 療育相談センターのパンフレット				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 事 例 検 討 や 演 習 問 題、調 査 後 の 口 頭 発 表 と な る べ く 学 生 の 参 加 型 の 授 業 に す る。積 極 的 に 参 加 し て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	造 形 で 遊 ぶ (造 形 表 現) (Playing with Art)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 野 和								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : こ れ ま で に 学 ん だ 造 形 表 現 の た め の 知 識 と 技 能 を 基 礎 と し、 領 域 「 表 現 」 の ね ら い や 内 容 に 沿 っ た、 保 育 の 造 形 活 動 に つ い て 考 え る。 幼 児 の 発 達 に 応 じ た、 課 題 の 設 定、 教 材 の 選 択、 画 材 や 道 具 の 使 い 方 を 確 認 す る と と も に、 環 境 構 成 に つ い て も 考 え、 課 題 設 定 や 教 材 研 究、 指 導 計 画 の 立 案 と 展 開、 保 育 活 動 の 実 践 を 想 定 し た 授 業 を 行 う。									
授 業 目 標 : こ れ ま で に 学 ん だ 子 ども の 表 現 力 を は ぐ く む た め の 知 識 を 基 礎 と し て、 保 育 の 全 体 構 造 に 基 づ い て、 子 ども の 造 形 的 な 表 現 に つ い て 理 解 を 深 め、 発 達 過 程 に 即 し た 教 育 へ の 知 見 を 深 め る。 こ の 科 目 は、 幼 児 期 の 子 ども の 発 達 に つ い て、 多 面 的 か つ 総 合 的 な 理 解 力 を 有 す る 人 材 を 養 成 す る 科 目 で あ る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』と図画工作・造形表現の意義について検討する。					事前：各自の造形経験を考える。 事後：配布資料を読む。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
2	子どもの造形表現の発達の道筋や特徴について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	遊びと造形について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
4	図画工作の内容「表現(1)」と造形遊びについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
5	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(1)発想と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
6	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(2)材料と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
7	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す： 用具と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
8	図画工作の内容「鑑賞」と鑑賞教材について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
9	造形で遊ぶ(1) 素材とイメージについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
10	造形で遊ぶ(2) 色や形からの表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
11	造形で遊ぶ(3) 共同の取り組みについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
12	現代的教育課題と造形・図画工作(1) 多様なニーズへの対応について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
13	現代的教育課題と造形・図画工作(2) 保育所・こども園・幼稚園・小学校の連携について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
14	作品・資料集を作成する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
15	総合レポートを作成する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
教 本 : 『小学校学習指導要領解説・図画工作編』文部科学省、日本文教出版、¥100+税 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』平田・小野 編著、教育情報出版、¥1,905+税 『造形がはじまるとき』・『造形が深まるヒント』平田・小野 監修、ひかりのくに、各¥1,800+税					参 考 文 献 : 『<感じること>からはじまる 子どもの造形表現』平田 監修、教育情報出版、¥2,000+税 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、¥240+税 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、¥350+税 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館、¥320+税				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 ・ 授 業 態 度 等 (50%)、 課 題 作 品 ・ レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 個 人 で 使 用 す る 材 料 ・ 用 具 に つ い て は 授 業 の 中 で 説 明 ・ 指 示 す る の で、 各 自 で 準 備 す る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	造形表現 (Modeling Expression)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小野 和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 領域「表現」のねらい及び内容について、造形表現の視点から幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因について理解を深める。さらに、造形表現の視点から幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識や技能、表現力を身に付ける。									
授業目標： 造形表現の視点から、幼児の表現の姿や、発達を理解する。造形表現の基礎的な知識や技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	領域「表現」における造形表現とは					事前：造形経験を考える。 事後：配布資料を読む。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
2	幼児の遊びや生活における造形表現…映像により理解を深める					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	造形表現が生成する過程…記録					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
4	幼児の表現への気づきと共感…記録の検討					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
5	多様な造形表現の研究(1) イメージ					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
6	多様な造形表現の研究(2) 素材の特性					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
7	多様な造形表現の研究(3) 表現の楽しさを生み出す要因					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
8	多様な造形表現の研究(4) 「共感」…撮影・記録					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
9	多様な造形表現の研究(5) 「想像」「創造」…撮影・振り返り					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
10	多様な造形表現の研究(6) 豊かな感性と造形表現					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
11	多様な造形表現の研究(7) 思考力の芽生え					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
12	多様な造形表現の研究(8) 「構造」					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
13	多様な造形表現の研究(9) 「協同」					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
14	多様な造形表現の研究(10) 異年齢とのかかわり、小学校との連携					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
15	多様な造形表現の研究(11) 総合的な造形表現					事前：配布資料を読む。 事後：授業内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
教本： ・『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）¥164 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府）¥164 ・『<感じること>からはじまる 子どもの造形表現』平田 監修、(教育情報出版) ¥2,200					参考文献： ・『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）¥164 ・『造形がはじまるとき』・『造形表現が深まるヒント』平田・小野 監修、(ひかりのくに) 各¥1,980				
成績評価の方法、評価基準：授業への参加姿勢、課題作品やレポートの内容等により総合的に評価する。 1. 受講者全員から作品・レポートの提出を求め、内容を成績評価に考慮する（50%） 2. 授業態度、質疑応答、授業への参加度を成績評価に考慮する（50%）									
学生へのアドバイス： 子どもと造形表現について意欲的に学び、造形表現の楽しさや喜びを体験し、知識や技能を習得することを期待する。個人で使用される材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミ I (Comprehensive Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣、沈 瑛、南 春英								
履 修 条 件	前提科目	基礎科目全般							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>少人数のクラスを編成し、担当教員の指導のもとで、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップの向上を図る。講義方式による指導ではなく、課題を与え学生自らがそれを解き、教員と学生相互の討議によるフォローアップによるレベルアップを図る方式を進める。</p> <p>以下の「授業内容及び計画」は一応の目安であり、具体的な実施内容は各担当教員の指導に基づく。履修者は初回講義に必ず出席する事（欠席した場合には履修を認めない）。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>テーマ：到達目標：社会人としての基礎能力の習得</p> <p>テーマ：「学士力」に関連したコミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップなど演習を通じて習得できるスキルや態度を学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
2	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
3	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
4	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
5	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
6	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
7	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
8	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
9	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
10	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
11	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
12	自己管理能力（TODOリスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
13	自己管理能力（TODOリスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
14	自己管理能力（セルフコントロール）					事前：なし 事後：なし		演習	
15	前期まとめ					事前：なし 事後：なし		演習	

16	ガイダンス	事前：なし 事後：なし	演習
17	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
18	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
19	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
20	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
21	面接	事前：なし 事後：なし	演習
22	面接	事前：なし 事後：なし	演習
23	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
24	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
25	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
26	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
27	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
28	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
29	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
30	まとめ	事前：なし 事後：なし	演習
教本： 必要とする教材をその都度準備・提供する。		参考文献： 各教員が指定する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題・レポートの提出状況、討議への参加・発言内容などを総合的に判断して評価する。			
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻は認めない。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミⅡ (Comprehensive Seminar Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修、小林 克、仲 伯維								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学、社会学、哲学、伝統文化、経済学、地理、歴史など							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>担当教員の指導のもとで、多方面の研究活動を行います。総合ゼミⅠの延長上にあるため、各担当教員の指示を受けて下さい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>テーマを立て、それに基づいて調査し、データを集め、報告書完成に至る。これから皆さんに対して、生起する様々な問題などに対して、自身の考えをもって対応できるようにすることが目標です。報告書の完成にいたるプロセスも大切な学習機会であり、自身の希望に向けての思考を確立する方法です。(※論文の執筆もできます。)</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	各自の興味・関心事からテーマのガイドラインを策定					事前：地域社会を考える 事後：テーマについて考える		ゼミナール	
2	テーマを確定する					事前：テーマについて考える 事後：地域を絞り込む		ゼミナール	
3	それぞれの地域社会に関する文献収集					事前：図書館や資料館の検索 事後：収集作業		ゼミナール	
4	それぞれの地域社会に関する文献収集					事前：収集作業 事後：収集作業		ゼミナール	
5	地域社会に関する調査方法の考察 (観察、インタビューなど)					事前：収集作業 事後：収集検討		ゼミナール	
6	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
7	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
8	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
9	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
10	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
11	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
12	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
13	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
14	調査・研究の中間報告					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
15	調査の結果、進捗の再検討					事前：調査・研究 事後：夏休み、後期への展望		ゼミナール	

16	後期の見通し、継続か方向転換を再検討します	事前：報告 事後：再検討	ゼミナール
17	研究方法の再検討	事前：再検討 事後：各自の事情により異なる	ゼミナール
18	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
19	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
20	調査・研究と報告書の再検討	事前：調査・研究 事後：テーマ決め	ゼミナール
21	報告書のレジュメ作成	事前：大きなまとめ 事後：レジュメ作成	ゼミナール
22	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：レジュメ作成	ゼミナール
23	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：本文原案	ゼミナール
24	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
25	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
26	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
27	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
28	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
29	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
30	報告書完成	事前：報告書作成 事後：報告書完成	ゼミナール
教本：		参考文献： その時々で指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： じっとしているのが苦手な方、歓迎します。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	相 続 法 (Inheritance Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 I / 私 法 学 II / 物 権 法 / 家 族 法							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 講 義 で は、民 法 第 五 編 相 続 を 中 心 に 講 義 を 行 な い ま す。相 続 法 の 法 定 原 則、共 同 相 続、遺 言、遺 贈、遺 留 分 減 殺 請 求 権 を 中 心 に 親 族 法 が 主 要 な テ ー マ と な り ま す。こ れ ら を 学 習 す る こ と を 通 じ て、法 学 的 な 客 観 的 視 点 で 事 象 を 分 析 し、問 題 を 発 見 す る 能 力、論 理 的 思 考 力 を 養 う こ と を 目 的 と し て い ま す。									
授 業 目 標 : 相 続 法 の 基 本 的 な 知 識 を 習 得 し、な ら び に 相 続 法 の 主 要 な 問 題 を 説 明 で き る よ う に な る こ と。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	オリエンテーション 講義の進め方、評価などにつき説明する			事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分		
2	相続法総論 相続制度の全体像を解説する			事前：日本の相続制度について調べる。 事後：相続制度の根拠についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
3	家督相続から遺産相続へ 日本の相続制度の特色を説明する			事前：家督相続とは何かを調べる。 事後：相続回復請求権の意義についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
4	相続財産(1) 積極財産とは何かを解説し、現行制度の問題を考える			事前：包括承継について調べる。 事後：現行制度の問題について調べる。			講義60分 ディスカッション30分		
5	相続財産(2) 消極財産とは何かを解説し、財産分離・限定承認の相互関係の理解を深める			事前：消極財産の相続について調べる。 事後：財産分離・限定承認の相互関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
6	相続人(1) 相続人の法定 相続人となる者を解説する			事前：現行法のもとでの相続人となる者を調べる。 事後：法定相続人と法定相続分の問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
7	相続人(2) 相続人の増減(1) 相続人の減少について解説する			事前：相続欠格/廃除人について調べる。 事後：相続欠格/廃除人についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
8	相続人(3) 相続人の増減(2) 相続人の増加について解説する			事前：養子/遺言について調べる。 事後：養子の状況と濫用についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
9	遺産分割(1) 特別受益・寄与分(1) 特別受益・寄与分の概要について解説する			事前：特別受益・寄与分について調べる。 事後：特別受益・寄与分についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
10	遺産分割(2) 特別受益・寄与分(2) 被相続人の意思と相続人間の均衡(調整の性質)を解説する			事前：寄与分における「貢献」について調べる。 事後：被相続人の意思と相続人間の均衡についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
11	遺産分割(3) 相続に関わる第三者の問題を解説する			事前：共同相続人とは何かを調べる。 事後：共同相続人間の法律関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
12	遺産分割(4) 分割の協議、それに伴う法的問題を解説する			事前：遺産分割の方法について調べる。 事後：遺産分割の法的問題についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
13	遺言と遺留分(1) 遺言と遺留分に関わる諸問題を解説する			事前：遺言について調べる。 事後：遺留分/減殺請求についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
14	遺言と遺留分(2) 遺言の方式とその法的問題を考える			事前：公正証書遺言について調べる。 事後：遺言に関する問題(事後救済)についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
15	まとめ 相続制度とその法的諸問題への理解を深める			事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
教本： とくになし(資料を配布します)。				参考文献： 授業中に適宜指示します。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等(30%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	組織心理学 (Organizational Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	産業心理学概論を履修していること							
	その他	なし							
授業概要： 現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業も産業心理学とは不可分の関係にある。そこで本授業では、組織とは何かから始め、組織内において生じる対人関係の在り方、精神的ストレスの定義と対処法、生理的特性や動機づけ、及び作業行動の発生過程までを学ぶ。授業形態は講義を中心とするが、随時討議や実習も行い、「分かりやすい授業」を目指す。									
授業目標： 組織構造や組織規範、対人関係から生じる精神的なストレスの意味を把握すると共に、ストレスからの脱出方法までを学ぶ。加えて、組織集団が有するリスク知覚とリスク回避方法までを正しく理解できることを到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法及び学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義70分、ディスカッション20分	
2	組織とは何か。組織の定義に始まり、組織構造、組織規範を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分、ディスカッション10分、PBL20分	
3	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分、ディスカッション10分、PBL20分	
4	動機づけを基にした目標管理制度の意味と、そこで用いられるPDCAサイクルの意味と、OJTやoffJT等の研修の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分ディスカッション10分、PBL20分	
5	産業現場で発生するヒューマンエラーには、人間の生理的な特性も関与している。サーカディアンリズムとこれに連動する大脳覚醒水準の特性を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分ディスカッション10分、PBL20分	
6	事故や労働災害を減少するには、人間の行動の仕組みを知ることが不可欠である。我々の作業行動を理解することを目指し、作業行動モデルの作成を行う。ここでは集団ブレインストーミング法を用い、作業行動を考え合う。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、ディスカッション70分	
7	前回到引き続き集団ブレインストーミングを通じて得られた様々なアイデアを、KJ法を用いてカテゴリ化を図る。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、ディスカッション70分	
8	前回到引き続きKJ法で得られたカテゴリ間に関連性を持たせ、人の作業行動のあり方、プロセスの図化を試み、その後班ごとに発表を行い、作業行動の仕組みを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義20分、ディスカッション70分	
9	用語としてのストレスの意味と使用方法の変遷、ストレスの構造とセリエの考えを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分ディスカッション10分、PBL20分	
10	精神的ストレスの定義、ライフイベント研究、ストレスの測定方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分ディスカッション10分、PBL20分	
11	ラザラスらが主張する心理学的ストレスモデルを学び、ストレスからの脱出方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義30分、実験40分、PBL20分	
12	精神的ストレスを軽減するためのソーシャルサポート、THP、ストレスチェックの方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分ディスカッション10分、PBL20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、職場安全管理対策の重要性を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分ディスカッション10分、PBL20分	
14	職場安全風土醸成を目指す集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分ディスカッション10分、PBL20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義70分、ディスカッション20分	

教本： 深澤伸幸『ヒューマンエラーとリスク・パーセプション』企業開発センター、¥3,000	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	租税法Ⅰ (Tax Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	郷原 廣行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>物の売買や金銭の授受など、経済取引をすると必ず種々の課税関係が生じます。租税法を学び、租税負担を予測して経済活動することは自己の財産を守るために不可欠です。授業では、租税法の基本原則、租税判例、時事問題、課税事務の実例などを中心に講義します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1)租税の基本的な仕組みと税法についての理解を深める。(2)租税法的思考(租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、解決するための能力)の修得。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	租税及び租税法とは 租税法法律関係の特色					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	租税法の基本原則 1 租税法法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	租税法の基本原則 2 租税公平主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	納税義務・課税要件・申告納税制度					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	節税・租税回避行為・脱税					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	租税法法律主義と租税法法律主義を争う憲法訴訟					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	申告納税制度と租税法法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	通達課税と租税法法律主義					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	節税・租税回避行為・脱税					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	課税要件と要件事実の認定					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	所得税法Ⅰ 所得税の基本原則					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	所得税法Ⅱ 課税所得の分類					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	所得税法Ⅲ 所得税法の構造と計算の仕組み					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	所得税法Ⅳ 必要経費、所得控除、税額控除					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	総まとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>「基礎から学ぶ現代税法」柳裕治ほか 財経詳報社 講義は配布するテキスト、プリントにより行う。</p>					<p>参考文献：</p> <p>「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著) 「もっと知りたい税のこと」財務省 等適宜指定</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>レポート、授業参加状況等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>税の知識を実際の実務や生活に活用し、簿記会計、税理士等、次のステージに挑戦してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義																																																																
授業科目(英文)	租税法Ⅰ (Tax Law I)						科目分類	専門科目																																																																	
担当教員	柳 裕治																																																																								
履修条件	前提科目	なし																																																																							
	その他	なし																																																																							
<p>授業概要：租税は経済生活のほとんどの局面に深い関わりをもつため、私たちは、通常、経済取引を行う場合、租税の問題を考慮することなしには経済的意思決定を行うことはできない。また、原則として、第一次的に納税者自らが課税標準及び税額を計算し、申告・納付しなければならないことから、当然に租税法を理解していることが要求される。そこで本講義では、租税法の基礎的知識修得のため、下記の内容について租税判例研究を交えて体系的に説明していく。また、租税の時事問題にも触れ、租税に関する幅広い知識を修得する。</p>																																																																									
<p>授業目標： 租税法の基礎的知識・租税法的思考の修得</p>																																																																									
<p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">◎</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○																																																											
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																							
◎	○																																																																								
<p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">授業回数</th> <th style="width:55%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th style="width:25%;">事前・事後学習（学習課題）</th> <th style="width:10%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス（租税法Ⅰ学修の概要）</td> <td>事前：シラバス確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>租税法学修の実益</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>租税・租税法の意義及び隣接諸科学</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>租税法の法源と効力</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>租税法の基本原則(1)租税法主義</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>租税法の基本原則(2)租税平等主義</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>租税の解釈適用(1)租税法と私法</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>租税法の解釈適用(2)信義誠実の原則</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>租税法の解釈適用(3)租税回避（節税・脱税・租税回避）</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>租税法関係・租税要件</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>納税義務の成立・確定・消滅</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>租税手続法（申告納税・推計課税・税務調査等）</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>租税救済法（再調査の請求・審査請求・訴訟）</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>租税制裁法（附帯税・租税犯）</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括（終了テスト・解説）</td> <td>事前：教科書確認 事後：講義内容確認</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>										授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	ガイダンス（租税法Ⅰ学修の概要）	事前：シラバス確認 事後：講義内容確認	講義	2	租税法学修の実益	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	3	租税・租税法の意義及び隣接諸科学	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	4	租税法の法源と効力	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	5	租税法の基本原則(1)租税法主義	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	6	租税法の基本原則(2)租税平等主義	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	7	租税の解釈適用(1)租税法と私法	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	8	租税法の解釈適用(2)信義誠実の原則	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	9	租税法の解釈適用(3)租税回避（節税・脱税・租税回避）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	10	租税法関係・租税要件	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	11	納税義務の成立・確定・消滅	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	12	租税手続法（申告納税・推計課税・税務調査等）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	13	租税救済法（再調査の請求・審査請求・訴訟）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	14	租税制裁法（附帯税・租税犯）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義	15	総括（終了テスト・解説）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																						
1	ガイダンス（租税法Ⅰ学修の概要）	事前：シラバス確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
2	租税法学修の実益	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
3	租税・租税法の意義及び隣接諸科学	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
4	租税法の法源と効力	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
5	租税法の基本原則(1)租税法主義	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
6	租税法の基本原則(2)租税平等主義	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
7	租税の解釈適用(1)租税法と私法	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
8	租税法の解釈適用(2)信義誠実の原則	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
9	租税法の解釈適用(3)租税回避（節税・脱税・租税回避）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
10	租税法関係・租税要件	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
11	納税義務の成立・確定・消滅	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
12	租税手続法（申告納税・推計課税・税務調査等）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
13	租税救済法（再調査の請求・審査請求・訴訟）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
14	租税制裁法（附帯税・租税犯）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
15	総括（終了テスト・解説）	事前：教科書確認 事後：講義内容確認	講義																																																																						
<p>教本： 柳裕治ほか『基礎から学ぶ現代税法（第5版）』財経詳報社（2023年9月） 租税法ⅠⅡは同じテキスト使用</p> <p style="text-align:right;">参考文献： 適宜指定</p>																																																																									
<p>成績評価の方法、評価基準： 小テスト・授業参加状況等（20%）、終了テスト（80%）等で総合評価する。</p>																																																																									
<p>学生へのアドバイス： 租税法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。特に所得税法・法人税法等について学びたい受講生は、租税法Ⅱを併せて履修することが望ましい。</p>																																																																									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>																																																																									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	租 税 法 Ⅱ (Tax Law Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	郷 原 廣 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	租 税 法 Ⅰ (Tax Law Ⅰ)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 経済的取引や相続・贈与による財産の移転など、経済取引等を行うと必ず課税関係が生じます。租税法を学び、租税負担を予測して経済活動することは自己の財産権を守るために不可欠です。授業では、法人・消費税・相続税法などの租税実体法を中心に講義します。また、所得税の確定申告の実務知識を修得します。									
授 業 目 標 : (1)租税の基本的な仕組みと税法についての理解を深める。(2)租税法的思考(租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、解決するための能力)の修得。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	基礎理論 租税法の基本原則と課税要件総論					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	法人税法Ⅰ 法人税の納税義務者と課税所得等の範囲等					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	法人税法Ⅱ 課税所得の基礎的計算構造					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	法人税法Ⅲ 益金と損金の計上時期・同族会社の行為・計算否認規定					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	消費税法Ⅰ 消費税法の概要					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	消費税法Ⅱ 消費税法の計算の仕組み・控除					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	相続税法Ⅰ 相続税・贈与税の意義と概要					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	相続税法Ⅱ 相続税法の構造と計算の仕組み(法定相続分課税方式)					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	相続税法Ⅲ 相続税法の構造と計算の仕組み(税額の算定)					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	相続税法Ⅳ 相続財産の評価と問題点					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	相続税法Ⅴ 贈与税の課税財産					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	租税手続法の構造・適用 租税回避行為・更正の請求					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	法人税・消費税・相続税のまとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	所得税法Ⅴ 所得税の確定申告(確定申告作成の実務)					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	総まとめ					事前：テキスト確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
教 本 : 「基礎から学ぶ現代税法」柳裕治ほか 財経詳報社 講義は配布するテキスト、プリントにより行う。					参 考 文 献 : 「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著) 「法人税法講座」中江博行(著)、岸田貞夫(監修) 「もっと知りたい税のこと」財務省 等適宜指定				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : レポート、授業参加状況等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 税の知識を実際の実務や生活に活用し、簿記会計、税理士等、次のステージに挑戦してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	租税法Ⅱ (Tax Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	柳 裕治								
履 修 条 件	前提科目	なし (租税法Ⅰの単位修得が望ましい。)							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>租税法Ⅰの履修を前提に、租税実体法、特に所得課税制度の基礎である所得税法・法人税法、さらに消費税法・相続税法に関する基礎的知識修得のため、下記の内容について租税判例研究を交えて説明する。また、租税の時事問題にも触れ、租税に関する幅広い知識を修得する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>所得課税制度等の基礎理論と実践の修得</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス (租税法Ⅱ学修の概要)					事前：シラバス確認 事後：講義内容確認		講義	
2	所得税の意義と所得税法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
3	所得概念・課税単位・納税義務者等					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
4	利子所得・配当所得・不動産所得・事業所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
5	給与所得・退職所得・山林所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
6	譲渡所得・一時所得・雑所得					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
7	損益通算・所得控除・税率・税額控除・確定申告書					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
8	法人税の意義と法人税法					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
9	益金概念と会計					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
10	損金概念と会計					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
11	同族会社の所得課税					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
12	企業会計と課税所得計算・確定申告書					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
13	消費税の意義と計算					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
14	相続税の意義と計算					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
15	総括 (終了テスト・解説)					事前：教科書確認 事後：講義内容確認		講義	
<p>教本：</p> <p>柳裕治ほか『基礎から学ぶ現代税法 (第5版)』財経詳報社 (2023年9月)</p> <p>租税法ⅠⅡは同じテキスト使用</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜指定。</p> <p>柳裕治編著『税務会計論 (第4版)』創成社 (2023年4月)</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>小テスト・授業参加状況等 (20%)、終了テスト (80%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>租税法ⅠⅡをセットで履修することが望ましい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									